



# Anchor アンカー



## グローバルズム 18

アンカー 50号発行によせて 2

人の子の時にも同様なことが起こるであろう 3

ニュースウォッチ 24

真の清め 28

三天使の使命 第二部 33

罪深き独立 38

# 50号

2013年1月

## アンカー50号を出版するにあたって

アンカー誌の初版を出したのは、1988年2月でありました。青年たちの自発的な小さな出発でした。24年間も続けられ50号まで出せたことは、ひとえに神様の恵みと皆様の支えだと深く感謝するものです。そして年々読者が増え続けてきました。謝辞！

激動の2012年も終り、また、2013年という新年を迎えました。4年前に米国大統領オバマが黒人として初めて大統領に選ばれたことは、世界中の人々を興奮させました。Change「変革」をキーワードとしたオバマの雄弁な演説に米国民は涙を流しながら喝采を上げていました。しかし、大きな期待は裏切られたように、ニューヨークで始まった格差問題、雇用問題は暴動へと発展し、多くの国々に飛び火しました。それでも11月にオバマは再選されました。その後、次々各国の指導者の交代もありました。年末は、日本でも隣の韓国でも政権交代で興奮していました。今後もどこの国でも、格差(貧富の差)、雇用問題、自然災害等々による動乱状態はエスカレートするでしょう。中東は相変わらず、火薬庫の上でかろうじて政治を続けている状態です。

聖書によると政治家たちがどんなに大言壮語して変革を叫んでも、株が上がっても一時的な現象であることが分かります。実に聖書、聖書だけが過去、現在、未来にわたる正確な記録と預言をしているのです。聖書の預言が確実であることは、真実な学問が証明しています。我々は、人間の憶測に翻弄されてきました。バビロン、エジプト、日本の歴史もすり替えられてきているようです。科学も憶測に頼っていることが多くあります。考古学でも、そのようなことが多々ありました。

世界は、ますます貧富の差が大きくなり、雇用問題、自然災害も増加し、圧倒的な未曾有の危機に突進していきでしょう。聖書は言明しています:「人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである」(ルカ21:26)。我々は一時の政治、経済、社会現象に翻弄されることなく、聖書の預言から未来を見つめていきたいものです。何者かが「新世界秩序」に向かって危機を作り上げていることを覚えていなければなりません。

ダニエル11章、黙示録13章、17章を見ると明らかです。巨大な宗教-政治勢力が、中世時代に実験したように、世界的な人類コントロールをしようとしていることを覚えていなければなりません。ハル・メイヤー氏の記事は、今日の世界政府構築-グローバリズムは、古代バビロンにその原則があることを指摘しています。それは非常に急速に進んでいます。

日本には、その事を見据えて、キリストの再臨こそ人類の諸問題の解決であることを認識していた偉人たちがいました。内村鑑三氏しかり、元東大総長の南原繁氏、矢内原忠雄氏もしかりです。

年末には、マヤ文明による終末さわぎもありました。こんなことが起こると、世の人々はノアの時代のように聖書の預言も茶化すようになるでしょう。マヤ文明の末裔さえ世の終わりではなく、世が変わると証していました。近い将来、新世界秩序が構築されることは、聖書の預言によると確かです。様々な終末論が乱れ飛ぶ中で「確実な預言」に目を留めていきましょう。聖書は世の終わりのことを明言していますが、それは神様からの憐みの警告であり、福音であるので、すべての人に神の救いのことが知らされて後のことです。しかも、十字架にかかられたイエス・キリストは、救いを与えるために再臨なさることを覚えましょう(ヘブル9:28)。「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」(マタイ24:14)。

アンカー誌は、黙示録14章にある三天使の使命を人々に伝えるのが目的です。

読者の上に神の豊かな導きと祝福がありますように！

# 人の子の時にも 同様なことが起るであろう

金城 重博

## ノアの大洪水、ソドム・ゴモラの火と硫黄

このテーマの重要性について、イエス・キリストご自身が次のように言われた。

“ノアの時にあったように、**人の子の時にも同様なことが起るであろう**。ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。ロトの時にも同じようなことが起った。人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建てなどしていたが、ロトがソドムから出て行った日に、天から火と硫黄とが降ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。**人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう。**” ルカ 17:26-30

アンカー 49 号で、沖縄で持たれた聖書考古学講演会について報告した。今号では、過去に起こったこれらの二つの出来事から学んでみたい。

ノアの時は、大洪水による地球規模の大激変があり、ノアの家族 8 人以外はことごとく滅ぼされた。

アブラハムとロトの時は、火と硫黄によってロトの住んでいたヨルダンの低地一帯—ソドム、ゴモラ、ゾアル、アデマ、ゼボイムが焼きつくされ、灰と化した。

「人の子の時にも同様なことが起るであろう」と言われている。「人の子」とは、神のひとり子であり

ながら、人となられたイエス・キリストを指している。イエス・キリストが再来あるいは再臨なさる時もちょうどノアの時代、またソドム—ゴモラの時代のようになるという預言である。

## 全世界が大洪水によって滅ぼされた原因

ノアの時代に、神がなぜ世界を大洪水で滅ぼされたかということについて、聖書を見てみよう。

モーセはこう記している：

“人が地のおもてにふえ始めて、娘たちが彼らに生れた時、**神の子たち(アダム、セツの子孫)は人の娘たち(カインの子孫)の美しいのを見て、自分の好む者を妻にめとった。……主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。……時に世は神の前に乱れて、暴虐が地に満ちた。神が地を見られると、それは乱れていた。すべての人が地の上でその道を乱したからである”** 創世記 6:1,2,5,11,12

イエスは言われた：

“ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。”  
ルカ 17:27

そこで、

“主は地の上に人を造ったのを悔いて、心を痛め、「**わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう。人も獣も、這うものも、空の鳥までも。わたしは、これらを造ったことを悔いる**」と言われた。……わたしは、**すべての人を絶やそうと決心した。彼らは地を暴虐で満たしたから、わたしは彼らを地とともに滅ぼそう。……わたしは地の上に洪水を送って、命の息のある肉なるものを、みな天の下から滅ぼし去る。地にあるものは、みな死に絶えるであろう。”**  
創世記 6:6,7,13,17

注：ただし、すべてのものではなかった。ノアとその家族、各種の動物一対ずつは箱舟に入って救われた。「すべての人」「みな天の下から滅ぼす」と言われているが、聖書は前後関係、また全体を見て解釈しないとんでもない結論に導かれることがある。

ノアの洪水は紀元前 2500 年、今から約 4500 年前のことであった。ノアの大洪水は、考古学ばかりでなく、伝説、言語学、地質学、人類学においても多くの証拠が出てきている。大洪水で人類はどれほどのものを失っただろうか？

靈感の書から引用しよう：

“**ノアの時代、地は、アダムの罪とカインの殺人の結果二重ののろいを受けていた。**しかし、これは、自然の表面に大きな変化を与えなかった。衰退の兆候は明らかに認められはしたが、地は、なお神の摂理の賜物に恵まれて、豊かで美しかった。山々にはりっぱな樹木が繁茂し、枝もたわわなぶどうのつるをからませていた。広々とした庭園のような平原は、一面の緑で、数多くの草花が甘くおっていた。地のくだものの種類は無類とっていいほど多かった。樹木は、その大きさ、美しさ、完全に整っている点などで、今日のどれよりもはるかにまっさつていた。…

**人類は、まだ初期の活力を多く保っていた。アダムが、生命を長らえさせる木に近づくことができたときからわずか数代しか経ていなかった**ので、人間の一生はなお、世紀を単位として数えられていた。非凡の能力をもって計画し、実行することができた長命のこうした人々が、もし、神の奉仕のために自分を捧げていたならば、彼らは地上で創造主のみ名に誉れを帰し、彼らに生命をお与えになった神の目的にそい得たことであろう。しかし、彼らは、そうしなかった。**偉大な体格と体力を持ち、その知恵深いことで有名な巨人がたくさんいた。彼らは、実に巧妙に驚くべきものを作り出すことにたけていた。”**

人類のあけぼの上 87,88

“洪水で、**今日の世界が知っている以上の芸術と技能の発明が滅亡した。破壊された芸術は、今日の芸術が誇っているものよりもさらに優れていた。** (Letter 65, 1898年)

人間はどこから発明の知識を得たのか。異なる動物の構造と習性を研究することによって主から得たのである。全ての動物は教科書である。動物の体の使い方と彼らに備えつけられた武器の使い方を人間は学び、いろいろな働きをする機器を作った。**人間がどれほどの芸術、技術が失われたかを知ることさえできたな**



ら、驚嘆するに違いない。洪水前の人間に神が与えられた芸術的才能を、もし我々が知ったら、その偉大さに我々はただ沈黙するのみであろう。多くの意味において、今日の知識以上のものが、洪水で失われた。”(Letter 24, 1899年)  
スタディバイブル旧約 16

オーストラリアの考古学者ジョナサン・グレイは、大洪水前の多くの科学、芸術、技術がすぐれていた証拠を、彼の著書「Dead Men's Secrets」で述べている。

なぜ、神はこれほど偉大な文明を滅ぼしたのか、霊感を受けた聖書注解者は、次のように言っている：

“神は、これらの洪水前の人々に、多くの豊かな賜物をお与えになった。ところが彼らは、自分自身をあがめるためにそれを用い、それをお与えになった方よりも、賜物そのものに愛着を持って、それらをのろいにかえた。彼らは、金、銀、宝石、最上の木材などを用いて自分たちの家を建築し、技術の限りを尽くして住居を飾りたて互いにしのぎを削った。彼らは、自分たちの高慢な心の欲望を満たすことだけを求め、快楽と罪悪に夢中になっていた。彼らは、神のことを考えようとしなかったため、いつのまにか神の存在を否定するようになった。彼らは、**自然の神のかわりに、自然を拝んだ**。彼らは、人間の才能をたたえ、自分自身の手のわざを拝み、子供たちに刻んだ像を拝むことを教えた。”

人類のあけぼの上 88

その技量と能力に応じて、ほしいままに悪を行う罪も大きかった。

“神は世界を見下ろして、人間に与えていた知性が曲げられ、その心に思い図ることが常に悪い事であるのを見られた。神がこれらの人たちに知識を与えられた。神が彼らに貴重な観念を与えたのは、彼らが神の計画を実行するためであった。けれども主は、彼に造られた人たちが知恵と機転、判断力を所有すべきなのに、あらゆる知性の特質を**自己賞揚**のために用いているのをご覧になった。洪水によって、**神は地球からこの長命の人種を拭い去り、彼らと一緒に、彼らが悪のためだけに用いてきた知識も滅んだ**。地球に再び人間が増えたとき、主は、彼らが主の大なる計画を遂行するために必要なだけの能力を与え、人に神の知恵を委託することをもっと控えられた。”(Letter 24, 1899年) スタディバイブル旧約 16

約 2000 年前、キリスト信者の撲滅に心血注いだパウロは、キリストとの出会いでクリスチャンになり、次のように言っている：

“神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。なぜなら、彼らは**神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったから**である。彼らは**自ら知者と称しながら、愚かになり、不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せたのである**。ゆえに、神は、彼らが心の欲情にかられ、自分のからだを互にはずかしめて、汚すままに任せられた。彼らは**神の真理を変えて虚偽とし、創造者の代りに被造物を拝み、これに仕えたのである**。……

それゆえ、神は彼らを**恥ずべき情欲に任せられた**。すなわち、彼らの中の女は、その自然の関係を不自然なものに代え、**男もまた同じように女との自然の関係を捨てて、互にその情欲の炎を燃やし、男は男に対して恥ずべきことをなし、そしてその乱行の当然の報いを、身に受けたのである**。そして、彼らは神を認めることを正しいとしなかったため、神は彼らを正しからぬ思いにわたし、なすべからざる事をなすに任せられた。すなわち、彼らは、**あらゆる不義と悪と貪欲と悪意とにあふれ、ねたみと殺意と争いと詐欺と悪念とに満ち、また、ざん言する者、そしる者、神を憎む者、不遜な者、高慢な者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者となり、無知、不誠実、無情、無慈悲な者**となっている。彼らは、こうした事を行う者どもが死に価するという神の定めをよく知りながら、自らそれを行うばかりではなく、それを行う者どもを是認さえしている。”

ローマ人への手紙 1:20~32

## まとめ：滅亡に至る順序

1. 創造神に背を向ける
2. 自己称揚、高慢↓
3. 偶像礼拝—被造物、人間、動物、蛇礼拝↓
4. 不品行、不道徳、情欲、乱婚、同性愛↓
5. 滅亡



## ソドムーゴモラの滅亡

ソドムとゴモラが天から火と硫黄が降って焼きつくされ全く灰と化したことは、聖書考古学で実証された。それが起こったのは、2345B.Cであった。「火と硫黄が天から降って」焼きつくすということは、聖書に2回出てくる。一度は、ソドムーゴモラに起こった。

二度目は終わりの日に地球が再創造される前である。一度目は、中東の一角で起こった。二度目は、地球全体に起こると預言されている。そして聖書の預言はこれまで確実に成就したように、今後も確実に起こるであろう。

“現在は、罪悪が世にあふれて、最後の大危機が近いことを告げている。神の律法が全世界的に無視され、神の民がその同胞からの圧迫と迫害を受けるようになるその時に、主が介入なさるのである。”

キリストの実物教訓 159

この問題を研究する前に、最も大切なことを知らなければならない！

それは、**神のご品性について正しく理解すること**である。聖書は何と教えているだろうか！

## 1. 神のご品性

“愛さない者は、神を知らない。**神は愛**である。”

第一ヨハネ 4:8

“**義と公平**はあなたのみくらの基、いつくしみと、まことはあなたの前に行きます。”

詩篇 89:14

“モーセは言った、「どうぞ、あなたの**栄光**をわたしにお示してください」。主は言われた、「わたしはわたしのもろもろの**善**をあなたの前に通らせ、**主の名**をあなたの前にのべるであろう。”

出エジプト記 33:18-19

“主は彼の前を過ぎて宣べられた。「主、主、**あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神**、

**いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず、父の罪を子に報い、子の子に報いて、三、四代におよぼす者。**”

出エジプト記 34:6-7

神のご品性は、一言で言い表すと「愛」である。人間の用いている「愛」は、往々にして感傷的—センチメンタルな使い方が多い。憐れみ、慈しみ、優しさ、親切…神の愛について語るとき、正義と憐れみ、慈しみは不可分で、完全に両立している。従って、我々が神の性質にあずかるということは、憐れみ、やさしさだけでなく、罪を罪と呼ぶのに恐れないこと、悪を戒めることと憐れみと赦しの精神、これらの特性を併せ持つことである。

水戸黄門のドラマは、これまで何回放映されたかわからない。黄門様はなぜ、日本人からあれほど尊敬されているのだろう。彼は正義の人であった。徹底的に悪と不義を見逃さない、そればかりでなく、豊かな赦しと憐れみに富んでいて弱い者の味方であったという両面を持ち合わせていたからだろう。

アメリカでこんな話を聞いたことがある。野生の馬をしつづけるときにどうするか。馬の主は、暴れまわる馬を柱に縛り付ける。足でけりけり暴れまわる。しかし、馬主は、両手でその馬の首をしっかりつかむ。暴れるだけ暴れさせる。やがて馬は、力尽きて蹴るのを止める。その時、馬主は、手を放してすぐ馬の前に回って、顔を抱いて「お前を愛しているよ」としっかり伝える。するとその馬は、この馬主に命をかけて仕えるようになるという。戦場で、主人が矢で射られた時にも、戻ってきて膝をついて乗せて助けるという。

子供をしつづけるときにも同様の原則が当てはめられると思う。憐れみだけなら、子供は我がままになり、放任されてしまう。厳しさだけだとひねくれてしまう。

E.G. ホワイトは次のように言っている：

“クリスチャン生活は、多くの人が考えている以上のものであって、ただ優しく、忍耐強く、柔和で、親切なだけではない。こうした美德は大切であるが、勇気、力、元気、不屈の精神も必要である。キリストがさし示された道は、狭い、克己の道であり、その道にはいり、困難や失望をおしきって進むには、弱虫であってはできない。……

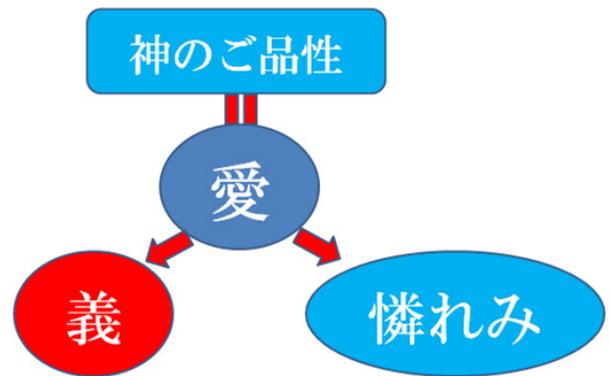
成功したいと思う者は、勇敢で希望に満ちていなければならない。消極的な長所だけでなく、積極的な長所も養わなければならない。怒りをそらす柔らかい答えを与えると同時に、悪に抵抗する英雄的勇気も持っていなければならない。万事に耐える愛を持つとともに、その感化を決定的な力とする強い性格が必要である。”

ミニストリー・オブ・ヒーリング 483

話が少しずれてしまったが、要するに神のご品性を正しく理解していないと我々の品性も、性質も歪んだものになるということである。子供のしつけも誤ってしまう。神がなさることを歪んで理解し、疑い、不信に陥ってしまう。

**神が愛であるなら、どうして、そんな恐ろしい刑罰を下すのか？**

「神は罪人を愛されるが罪を憎まれる」という原則を覚えていなければならない。



神が刑罰を下した時は、あまりにも人類が神に背き、神を冒瀆し悪に満ちたからであった。愛の神がどうして地球を大洪水という大激変で滅ぼしたのであろうか？ 神は幾たびも訴え、警告し、手を伸ばして救おうとされても、人が罪から離れないと「なすに任せられる」（ローマ 1:24,28）。「まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる」（ガラテヤ 6:7）。

ある養蜂家の話。苦勞して育てたミツバチのほとんどが病気にかかって全滅しそうになった。彼は、養蜂を続けていくためには、病気にかかったミツバチを全部焼き捨てなければならないと決心した。そして残ったわずかなミツバチを再び丁寧に育てて成功した。



ノアは神の前に「恵みを得た」と言われている。洪水の後、再びご自分の計画を遂行するためにノアの家族から人々を増やしていくことになった。

## 2. ソドム・ゴモラの滅亡から 学んでみよう

ソドムーゴモラの滅亡についてのストーリーは、**創世記 11～19章**にある。

アブラハムは「信仰の父」と呼ばれている。世界三大宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）は、彼を起源としている。宗教が巨大化して歪（いびつ）なものになってしまったが、彼自身は信仰による義認の

模範であった。ロトは彼の甥であった。彼らは「家畜と金銀に非常に富んで」いた。繁栄すると部下たちの間にたびたび争いが起こるので二家族は分かれることになる。そこでアブラハムは、まずロトに自分の良いと思う土地を選ぶように勧めた。

## ロトが選んだソドムとゴモラは どんな地であったか？

“ロトが目を上げてヨルダンの低地をあまねく見わたすと、主がソドムとゴモラを滅ぼされる前であったから、ゾアルまで主の園のように、またエジプトの地のように、すみずみまでよく潤っていた。

そこでロトはヨルダンの低地をことごとく選びとって東に移った。こうして彼らは互に別れた。

アブラムはカナンに地に住んだが、ロトは低地の町々に住み、天幕をソドムに移した。”

創世記13:10-12

“肥沃で美しい『主の園』のような平原にあって、ソドムは、ヨルダンの谷間の町々のなかで、最も美しい町であった。ここには、熱帯植物が繁茂していた。ここは、やし、オリーブ、ぶどうなどの原産地で、花は一年中よい香(かお)りを放っていた。畑には豊かな収穫が実り、回りを囲んでいる山や丘には、牛や羊の群れが満ちていた。芸術と商業が、この高慢な平原の町を豊かにしていた。ソドムの宮殿には、東の国の宝物が飾られ、さばくの隊商は、高価な品々を運びこんで市場をにぎわした。ほとんど考えることも働くこともせずに、生活のあらゆる必要が満たされ、一年中祭りの連続のようであった。”

人類のあけぼの上 163

## 労働は祝福のため！

“日ごとの食物を得るために、かたい土とたたかわなければならなくなったとき、その同じ労働は、楽園での楽しい仕事とはずいぶん異なっていたとはいえ、誘惑の防壁であり、幸福の泉であった。労働には、労苦や苦痛が伴うからといって、労働をのろいとみなすものは誤っている。金持ちは、しばしば、労働階級を軽べつして見下すが、それは、神が人間を創造された目的から全くはずれている。どんなに多くの富を所有している人であっても、祖先のアダムに与えられた嗣業と比較すれば、いったいどれほどのものであろうか。しかし、アダムは怠惰でなかった。

人間の幸福をもたらすものが何であるかを知っておられた創造主は、アダムに仕事をあてがわれた。働く男女だけが、生活の真の喜びを発見する。天使たちは熱心に働いている。彼らは、人の子らのために働く神の使者である。創造主は、怠惰なのろのろした習慣をお許しにならない。”

人類のあけぼの上 26

## 最大ののろい！

“至るところに物があふれることは、ぜいたくと高慢の原因になる。必要に迫られたことも、悲しみに打ちひしがれたこともない心は、怠惰と富によってかたくなになる。人々は、富と暇にまかせて、快楽を追求し、肉欲をほしいままにするのであった。……

富と暇ほど人々のほしがめるものはない。ところが、これらが平原の町々を滅亡させた罪のものであった。彼らの無益で怠惰な生活が、サタンのつけねらうところとなり、彼らは、神の形を傷つけ、神よりはサタンに似ていった。怠惰は、人間の陥る最大ののろいであって、非行と犯罪がそれに続くからである。それは頭脳を弱め、知力をゆがめ、魂を墮落させる。サタンは、油断している者を滅ぼそうと待ちかまえている。人間の暇のときは、サタンが、何か魅惑的変装をして巧みに取り入るよい機会である。彼は、人間が何もしないでいるときに近づけば、一番成功するのである。”

人類のあけぼの上163-4



### 3. ソドムーゴモラの滅亡の原因

“ソドムの人々はわるく、主に対して、はなはだしい罪びとであった。”

創世記 13:13

“見よ、あなたの妹ソドムの罪はこれである。すなわち彼女と、その娘たちは高ぶり、食物に飽き、安泰に暮していたが、彼らは、乏しい者と貧しい者を助けなかった。彼らは高ぶり、わたしの前に憎むべき事をおこなったので、わたしはそれを見た時、彼らを除いた。”

エゼキエル 16:49,50

“…ソドム、ゴモラも、まわりの町々も、同様であって、同じように淫行にふけり、不自然な肉欲に走ったので、永遠の火の刑罰を受け、人々の見せしめにされている。”

ユダ 1:6, 7

「ソドミー」という言葉があるが、性的な不道徳が溢れていた「ソドム」から来ているようだ。映画にもなった。



人々は、ロトの婿たちでさえ、どんな態度であったか？

“そこでロトは出て行って、その娘たちをめとるむこたちに告げて言った、「立ってこの所から出なさい。主がこの町を滅ぼされます」。しかしそれはむこたちには戯むれごとに思えた。”

創世記 19:14

ついに神はソドムーゴモラを滅ぼすことになる。

“主は硫黄と火とを主の所すなわち天からソドムとゴモラの上に降らせて、これらの町と、すべての低地と、その町々のすべての住民と、その地にはえている物を、ことごとく滅ぼされた。”

創世記 19:24(ルカ17:29)

“ただ、非道の者どもの放縦な行いによってなやまされていた義人ロトだけを救い出された。”

第二ペテロ 2:7

### 4. 神はソドムーゴモラにどんな警告を与えたか？ (アモス3:7参照)

“のがれて、自分の命を救いなさい。うしろをふりかえって見てはならない。低地にはどこにも立ち止まってはならない。山にのがれなさい。そうしなければ、あなたは滅びますconsume(焼きつくす)。”

創世記 19:17

“また、ソドムとゴモラの町々を灰に帰せしめて破滅に処し、…”

ペテロの第二の手紙 2:6

### 5. 聖書は世界の滅亡について何と言っているか？

- ① ノアの洪水で一度世界は滅亡した。救われたのはノアの家族だけ！
- ② しかし、二度と水では滅ぼさないとの神の約束として契約の虹が置かれた！
- ③ もう一度、世界の滅亡がある！
- ④ 今度は火と硫黄で滅ぼされると書いてある！

“また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、以後の不敬虔な者へのみせしめとされました。”

第二ペテロ 2:6 (新改訳)

“…ソドム、ゴモラも、まわりの町々も、同様であって、同じように淫行にふけり、不自然な肉欲に走ったので、永遠の火の刑罰を受け、**人々の見せしめにされている。**” ユダ 1:6, 7

※ 見せしめの意:「同じような悪いことをしないように厳しく罰してみせること」

“これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、**世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。**” 第一コリント 10:11

## イエス・キリストは、何と預言されたか？

“ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。

ロトの時にも同じようなことが起った。**人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建て**などしていたが、ロトがソドムから出て行った日に、**天から火と硫黄**とが降ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。

**人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう。**” ルカ 17:27-30

## 6. 考古学による証明

学者の推測では、ソドムーゴモラは死海の海中に埋没していると言われていた。しかし、1989年、ロン・ワイアットは、ソドム、ゴモラ、ゾアル、ゼボイム、アデマが死海の西沿岸に全く灰と化して、今に至るまで残されているのを発見したのだ。

## 7. ソドム化する現代世界！

世界はイエス・キリストの再臨まで、ノアの洪水前、ソドムーゴモラ滅亡前のような状態に悪化するのだろうか、それとも平和の「千年期」が来るのだろうか？

“また国が始まってから、その時にいたるまで、**かつてなかったほどの悩みの時**があるでしょう。”

ダニエル書 12:1

“しかし、このことは知っておかねばならない。**終りの時には、苦難の時代**が来る。その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者、融和しない者、そしめる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快樂を愛する者、信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい。”

第二テモテ 3:1-5

黙示録 6章、16章にキリスト再臨前に起こる未曾有の大災害が描写されている。決して再臨前に平和の千年期は来ない！

人の子(イエス・キリスト)の再臨=世の終わりにノアとロトのときと同じことが起こる。なぜか見てみよう。



硫黄の玉— 破壊された建物の灰の残骸に埋めこまれている

# 今日ちょうどノアの洪水前 ソドムゴモラの滅亡前のよ うなことが 起っていない だろうか？

滅ぼされた理由をまとめてみると：

1. 乱婚、性的不品行—同性愛
2. 物質主義・飽食・怠惰
3. 貧富の差—格差

## 1 乱婚

結婚はエデンで神が定めた聖なる制度であった。飲食は悪いものではない。建築もわるいものではない。金を「愛することがすべての悪の根」である（第一テモテ 6:10）。

ソドム—ゴモラの罪の一つは同性愛であった。二人の天使がロトを訪れた時、ロトは彼らを家の中に入れた。暴虐を恐れていたからである。すると大勢の乱暴者が押し寄せてきてロトに叫んで言った：「今夜おまえの所にきた人々はどこにいるか。それをここに出しなさい。われわれは彼らを知るであろう」。この「知る」という言葉は「アダムはその妻エバを知った。彼女はみごもり」と同じ言葉で性交を意味するという。新共同訳では、「なぶりものにしてやるから」となっている。

オバマ米大統領は2012年5月9日に放映されたABCテレビのインタビューで、**同性婚を支持すると表明した**。現職の米大統領が同性婚支持を表明したのは初めて。米国の国論を二分する問題をめぐり、大統領選で共和党の指名が確実になっているミット・ロムニー前マサチューセッツ州知事と真っ向から対立することになったが、結局、先日の米国大統領選挙でオバマが再選された。

アメリカだけではない。この疫病は国々に広がっている。同性同士が結婚してはならないと、誰が決めるのかと言うのである。もう道德の基準を失ってしまった。



ゲイパレードに30万人が参加—  
バンクーバー・プライド・パレード

2009年にブラジルで開催された第13回「サンパウロ・ゲイ・プライドパレード」。2006年に推計250万人の参加者を集めた世界最大のプライド・パレードとしてギネス世界記録に認定されており、2009年にはさらに多い320万人が参加している。

## ゲイパレード (ゲイ、同性愛、反差別運動の流行)

2012年6月10日、世界で最も長い歴史を持つLGBT（同性愛者、両性愛者、性転換者の人たちのこと）パレードのひとつ「Los Angeles Gay Pride Parade」がロサンゼルス・ウエストハリウッドで行われた。

ゲイパレードは、アフリカのモーリシャス、アジアのインド、イスラエル、フィリピン、台湾、ヨーロッパのブルガリア、フランス、ギリシャ、ラトビア、リトアニア、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ロシア、セルビア、スロヴェニア、スペイン、トルコ、イギリス、北アメリカのカナダ、アメリカ合衆国、グリーンランド、南アメリカのブラジル、オセアニアのオーストラリア、そして日本にも広がりつつある。

## 児童婚

「ユニセフは、世界各地で、政府や市民社会、他の国連機関や財団などと協働しながら、児童婚の根絶に向けた地道な取り組みを進めています。社会・経済的支援や法整備・改正支援などを通じて、具体的に児童婚の根絶に取り組んだ国は、2011年時点で34カ国にのぼります。18歳になる前に結婚する女の子の数が最も多い国のひとつであるインド<sup>\*</sup>では、ほぼ全ての州で、児童婚の数が1992年の54%から2007-8年には43%まで減りました。しかし、その変化は緩やかです。



## 2 物質主義 社会

# 飽食 VS 餓死



幼くして結婚を強制され、就学の機会を奪われる子どもたちが世界中で5100万人にも上る。子どもの権利を侵害するだけでなく、妊娠・出産による妊産婦死亡リスクを高める。ユニセフによれば、母親が18歳未満の場合、生後1年以内に乳児が死亡する危険が、母親が18歳以上の場合に比べ60%高くなると警告。」(日本ユニセフからのお知らせ)

インドばかりではない、アフガニスタン、イエメン…50ヶ国にも及ぶという。

預言者は言う：

“見よ、あなたの妹ソドムの罪はこれである。すなわち彼女と、その娘たちは高ぶり、食物に飽き、安泰に暮していたが、彼らは、乏しい者と貧しい者を助けなかった。彼らは高ぶり、わたしの前に憎むべき事をおこなったので、わたしはそれを見た時、彼らを除いた。”

エゼキエル 16:49-50

“富んでいる人たちよ。よく聞きなさい。あなたがたは、自分の身に降りかかろうとしているわざわいを思って、泣き叫ぶがよい。あなたがたの富は朽ち果て、着物はむしばまれ、金銀はさびている。そして、そのさびの毒は、あなたがたの罪を責め、あなたがたの肉を火のように食いつくすであろう。あなたがたは、終りの時にいるのに、なお宝をたくわえている。

見よ、あなたがたが労働者たちに畑の刈入れをさせながら、支払わずにいる賃銀が、叫んでいる。そして、刈入れをした人たちの叫び声が、すでに万軍の主の耳に達している。あなたがたは、地上でおごり暮らし、快樂にふけり、「ほふるる日」のために、おのが心を肥やしている。”

ヤコブ 5:1-5

## 若者の心をむしばむ ロック音楽！ファッション！



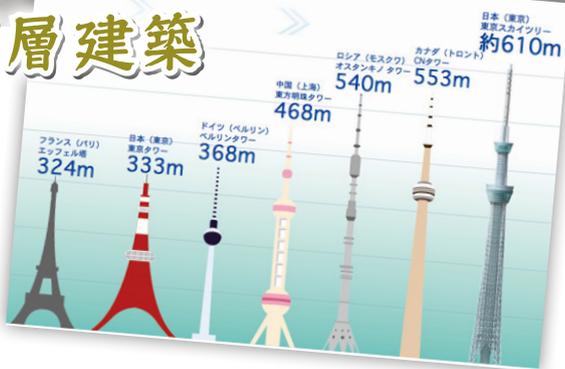
レディ・ガガ、韓国のキリスト教団体が公演に反対…日本では？「レディー・ガガ、日本での歓迎に嬉し涙」





神は近い将来、「人手によらずして」  
どんな高層建造物も粉々にすると  
言っておられる。

## 高層建築



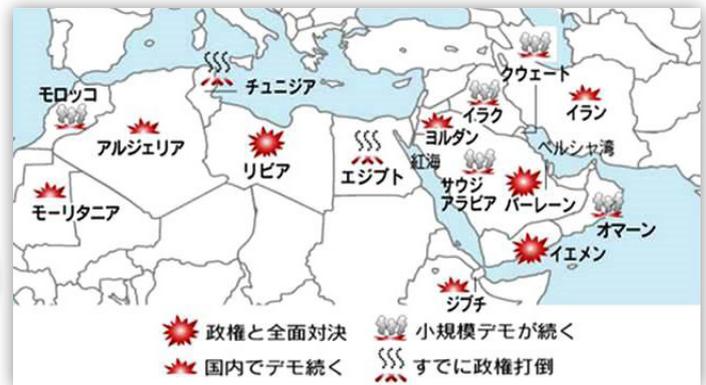
ソドムーゴモラ滅亡の原因の一つは建築ブームであった。  
国々がもっと高い建造物へとしのぎを削っている。

## 世界各地の暴動の火種と なっている貧富の格差！

3  
貧富の  
格差



↑このグラフは、指数カーブと言われている。何回か紹介したが、またここでも挿入させていただきたい。  
大自然災害が1980年頃から続発している統計であるが、このグラフはあらゆる悪が終わりの時に向かってエスカレートしていることをも意味しているのではないか。



↑反政府デモは大西洋岸からペルシヤ湾岸まで広がっている。



2011年9月10日から、米国最大の都市、ニューヨークでウォール街を占拠せよと叫ぶ若年失業者中心のオバマ政権の雇用対策、経済対策、富裕層優遇に強く抗議するデモが始まった。  
ウォール街のマネーゲーム企業が富裕の差を広げている。米国経済の象徴だとして強く敵視・非難している。↓



1%の金持が世界の富を握っている、我々は99%であると抗議。

## 8. ではいつ、このソドム化する悪の世界は、火と硫黄で滅ぼされるのだろうか？

### キリストの再臨直前

“すると、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが起り、また激しい地震があった。それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であった。”

黙示録 16:18

“島々はみな逃げ去り、山々は見えなくなった。”

黙示録 16:20

死んですぐ義人は天国に行くとか悪人は地獄に行くということは、聖書のどこにも教えられていない。

死んで後裁きを受けて（ヘブル 9:27）、キリストの再臨の時に報いを受けるのである（黙示録 22:12）。聖書にはこの問題について曲解されている聖句がいくつかあるので、それについては別に取り扱いたい。

### イエス・キリストの再臨の時ではない！

イエス・キリストの再臨の時には、イエス・キリストを救い主として受け入れて眠っている人々の復活がある。

その時まで生きている聖徒たちは、このとき昇天する。（第一テサロニケ 4:13）義人たちは天に上げられて、千年間、キリスト共に過ごす。

神の提供された無償の救いを拒否した人々、また、この地球はこの時「天から火と硫黄」が降ってきて滅ぼされるのではない。

悪人たちは、イエス・キリストと千々万々の御使いたちの栄光の輝きによって滅ぼされるのである（第二テサロニケ 2:8）。悪人は、死んで「眠り」、無意識状態のままこの地球に残される。



### 千年期が終わってから降る火と硫黄

聖書は、地球のどこかに地獄というのがあって悪人が苦しめられるということは、決して教えていない。一般でも「天国」「地獄」「千年期」ほど曲解されている教えはない。人間の死後の問題は別の研究にゆだねる。

## 9. なぜ、神は千年間もかけて裁くのか？「千年期」の福音！

神は愛の神であられる。神は憐れみ深い方であると同時に正義の方であることを最初に学んだ。その神のご品性を擁護しなければならない。全宇宙の全ての被造物が納得いくまで調査審判してから悪魔と悪天使と悪人を滅ぼすのである。

私はなぜ、千年もかけるのか意味がさっぱり分からなかった。しかし、今はこの「千年期」がどんなにすばらしい神の福音であるかということが分かった。

黙示録 20 章を読んでみよう。詳しい解釈はここではしないが、次のように書かれている：

- 千年期について—6回
- 第一の復活について—2回
- 第二の復活について—言葉はないが、8,13 節を見るとわかる。
- 第二の死について=火の池について— 14,16, 21:8

“またわたしが見ていると、ひとりの御使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って、天から降りてきた。

彼は、悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき、そして、底知れぬ所に投げ込み、入口を

閉じてその上に封印し、**千年の期間が終るまで**、諸国民を惑わすことがないようにしておいた。その後、しばらくの間だけ解放されることになっていた。

また見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた。また、イエスのあかしをし神の言を伝えたために首を切られた人々の霊(soul=魂)がそこにおり、また、獣をもその像をも拝まず、その刻印を額や手に受けることをしなかった人々がいた。彼らは生きかえって、キリストと共に**千年の間、支配した**。

※ 殉教した人の霊は、肉体を離れた靈魂ではない。アダムが創造された時のことを考えてほしい。土のちりで人を造り、「命の息」を吹き込んだとき人は「生きた魂—欽定訳」となった。ヘブル語のネフェシュ、ギリシャ語でプスケー「者」「故人」「命」「生きた者」である。殉教者たちは生き返って天で千年間過ごす。

(それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかつた。)これが**第一の復活**である。

※ 復活なさったときのキリストのように、不朽の体に復活しているのである(第一コリント 15 章)。

この**第一の復活**にあずかる者は、**さいわいな者**であり、また**聖なる者**である。この人たちに対しては、**第二の死**はなんの力もない。彼らは**神とキリストとの祭司**となり、キリストと共に**千年の間、支配する**。

※ 第二の復活にあずかる者は不幸な者で、不義なる者である。

千年の期間が終ると、サタンはその獄から解放される。そして、出て行き、地の四方にいる諸国民、すなわちゴグ、マゴグを惑わし、彼らを戦いのために召集する。その数は、海の砂のように多い。彼らは地上の広い所に上ってきて、**聖徒たちの陣営と愛されていた都とを包囲した**。すると、**天から火が下ってきて、彼らを焼き尽した**。

そして、彼らを惑わした悪魔は、**火と硫黄との池に投げ込まれた**。そこには、獣にもせ預言者もいて、彼らは**世々限りなく日夜、苦しめられる**のである。

また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御顔の前から逃げ去って、あとかたもなくなった。

また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。か



ずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。”黙示録 20:1-12

- ※ 聖徒たちは、悪天使をもさばく(第一コリント 6:3)。つまり、聖徒たちは陪審員のようなものである。なぜ、当然天国に行けそうな人がいない、なぜ、自分の愛する者が滅びなければならないのか、まさかの人が天国に来ている、…一人一人地球上の全ての者、千々万々の天使のさばきに携わるのである。聖徒たちも愛する者たちが天国に来れなかったことも、教会員あの牧師、あの立派な人が天国に来ていないことも納得する。全宇宙の被造物も納得する。悪人たちも、悪天使たちも、更にはサタン自身も納得して「神は愛なり」と叫んで滅んでいく。そのために、千年間も時を費やすのである。何ということ！

麻原彰晃の裁判にさえなぜこんなに長い期間をかけるのか納得いかないと考えている人が少なくはないであろう。神は千年も時間かけて裁かれるのである。あがなわれた聖徒たちは、天で遊び楽しむのではない！神自ら義であることを証明するために宇宙の難問題を解決する特別な役割を果たす。(ローマ 3:26)。

“海はその中にいる死人を出し、死も黄泉もその中にいる死人を出し、そして、**おのおのそのしわざに応じて、さばきを受けた**。それから、死も黄泉も**火の池に投げ込まれた**。この**火の池が第二の死**である。”

- ※ 「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである」(ローマ 6:23)。義人の嗣業は生命であるが、悪人が受けるものは死である。モーセは、イスラエルに次のように宣言した。「見よ、わたしは、きょう、命とさいわい、および死と災をあなたの前においた」(申命記 30:15)。この聖句の中で言われている死は、アダムに宣告された死ではない。なぜなら、全人類が彼の罪の報いを受けているからである。永遠の生命と対照されているのは、「第二の死」である。知的障害などで福音を理解できなかった者たち、まだ自分の自由意志で選ぶことが出来なかった子供たちは、親の信仰によって天国に入る者もいるだろう。また、火の池で苦しむことはないだろう。

神は最善の策を持っておられる。悪人にとって自分の好き勝手なことのできない天国はかえって苦しみとなるので、神は本人にとって最も良い方法で処理なさるのだろう。

## 10. 神は喜んで悪人を火の池に投げ込むだろうか？

“それから、左にいる人々にも言うであろう、「のろわれた者どもよ、わたしを離れて、**悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火**にはいってしまえ。」”

マタイ 25:41

“**神は、わたしたちを怒りにあわせるように定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによって救を得るように定められたのである。**”

第一テサロニケ 5:9

“ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、**ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。**”

第二ペテロ 3:9

“神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者が**ひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。**”

ヨハネ 3:16

## 11. 罪人を滅ぼすのは神の性質ではない！

“主はペラジム山で立たれたように立ちあがり、ギベオンの谷で憤られたように憤られて、その行いをなされる。その行いは**類のないものである**。またそのわざをなされる。そのわざは**異なったものである。**”

イザヤ 28:21

“あなたは彼らに言え、主なる神は言われる、わたしは生きている。わたしは悪人の死を喜ばない。むしろ悪人が、その道を離れて生きるのを喜ぶ。あなたがたは心を翻せ、心を翻してその悪しき道を離れよ。イスラエルの家よ、あなたはどのようにして死んでよかろうか。”

エゼキエル 33:11

二者択一、永遠の命か永遠の死か？どちらでもあなたの選びなのである！

“人の子は人の命を滅ぼすためではなく、救うために来たのである(欽定訳)この句が日本語には削除されている。”

ルカ 9:56

## 新天新地

“わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、

「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。

すると、御座にいますかたが言われた、

「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。  
また言われた、

「書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである」。

そして、わたしに仰せられた、

「事はすでに成った。わたしは、アルパでありオメガである。初めであり終りである。かわいている者には、いのちの水の泉から価なしに飲ませよう。勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。」

黙示録 21:1-7



神は愛なり



GLOBALISM

# グローバリズム

〔世界主義・地球規模政策〕

## 最終的立ち位置

聖書預言に照らし  
いかに今を理解するか？

ハル・メイヤー

通訳 砂川 満

Keep the Faith Ministry

2012年10月講演より



皆さんと共にいられることを嬉しく思います。

聖書の興味深い話をします。そして今の時代に対する正しい洞察が得られることを願います。聖書は過去だけでなく未来の事も書かれています。

### 預言されていた世界歴史

そしてその預言が正確であるとの典型がダニエル書 2 章「ネブカデネザル王の夢」です。バビロンの王、ネブカデネザルは巨大な像の夢を見せられ、それを通して彼の後に起こる国々が示されました。

「王よ、あなたは諸王の王であって、天の神はあなたに国と力と勢いと栄えとを賜い、また人の子ら、野の獣、空の鳥はどこにいるものでも、皆これをあなたの手に入れて、ことごとく治めさせ

られました。あなたはあの金の頭です。」  
ダニエル書 2:37,38

ネブカデネザルと彼の国だけがいつまでも世界を治めるのではない、との夢の解き明しをダニエルはしました。世界を支配する国が次々起こる事を預言しています。そして次から次へとその当時の世界を治める帝国が記され、それら覇権を持つ国々は世界政府を目指し、グローバリズムを目指していました。

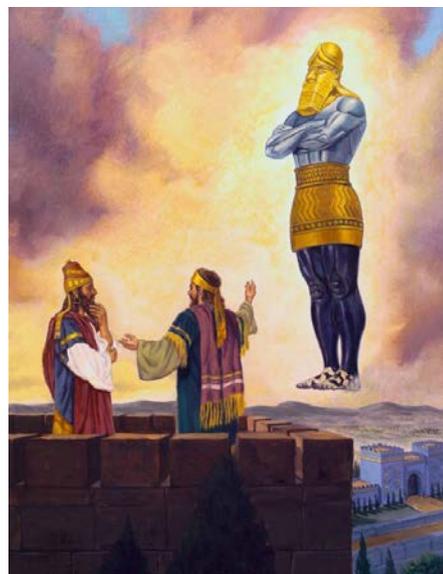
夢に出てきた像の頭の部分はあなた（ネブカデネザル王とその国）を指していますと言われました。彼の国は最も輝かしい富んだ国でした。

「あなたの後に、あなたに劣る一つの国が起こります。」ダニエル書 2:39

次に興る国は像の銀の両肩・両腕で表され、肩・腕は二つずつあるように、それらはメディアとペルシャの連合

軍だった事を表しています。

「また第三に青銅〔真鍮〕の国が起って、全世界を治めるようになります。」ダニエル書 2:39





「あなたはその足と足の指を見られましたが、その一部は陶器師の粘土、一部は鉄であったので、それは分裂した国をさします。しかしあなたが鉄と粘土との混じったのを見られたように、その国には鉄の強さがあるでしょう。」ダニエル書 2:41

どの王国もグローバリズムを目指しましたが失敗してきました。鉄と粘土でできた足の先で表された国々も世界制覇を試みますがうまく調和しません。鉄と粘土の部分は私たちの時代を指しています。

神様がネブカデネザルに夢を見せ、ダニエルが王様に夢の解き明かしをしました。これらは彼らにとって未来の出来事、預言でした。特に鉄と粘土の足で表された国々ははるか未来の国の事です。今私たちはそれを過去として見る事ができ、聖書が実に正確であることを見る事ができます。

国々が分割されると、もはや世界一致の試みはなされないとはいりません。鉄と粘土の足の先の時代に入ってからグローバリズム・超大国への試みが何度もなされてきました。しかし、この鉄と粘土の足の時代にあることが起こります。

「それらの王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民に渡されず、かえってこれらのもるもの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠に至るのです。」ダニエル書 2:44

これはキリストの再臨を言っています。人手によらず切りだされた石が像を打ち砕き、グローバリズムのあらゆるところみが終結します。しかしその前に聖書はグローバリズムの最後に何が起こるかを言っています。歴史でグローバリズムを研究すると未来にどのようなグローバリズムが試みられるかが分かり、聖書から未来がどのように展開するかがわかります。聖書の預言の興味深い点はここにあります。聖書から様々な教訓を得られるだけでなく、聖書の預言から未来を読むことができます。そしてグローバリズムを試みる人たちのことを読み取ることが出来、その結末を

知ることが出来るのです。さらに聖書から地上歴史の結末を知ることが出来るのです。では、聖書をひも解いて、グローバリズムの結末を見ていきましょう。ダニエル書 2 章でグローバリズムを見ることができますが、これが初めではありませんでした。聖書の一番初めの書、創世記 10 章には歴史上最初のグローバリズムの試みが書かれています。

「クシの子はニムロデであって、このニムロデは世の権力者となった最初の人である。」創世記 10:8

ニムロデは世界制覇をもくろみしました。彼は、天の原則と神の意志に逆らい、世界規模の異教君主国家を確立しようと望みました。

## グローバル化の原則

### 1. 神とその律法に対抗

神とその律法に敵対すること、これがグローバリズムの最初の原則でした。グローバリズムをもくろむ者たちにより、人々の中に神の原則が完全に捨て去られることを防ぐため、神様は時折介入されました。

「彼の国は最初シナルの地にあるバベル、エルク、アカデ、カルネであった。」創世記 10:10

ニムロデはグローバリズムを試みるに先立ち大都市を建設したのです。世界制覇を遂行するにあたり、大都市建設には複数の利点があることを知っていました。大都市を築くことで民衆を支配しやすくなることを知っていました。都会に人口を集中させることで全てを支配することができるのです。人々をどこに住ませるかコントロールすることができます。人々をどこで仕事をするか、宗教的な人々の礼拝場所の管理、電気・ガス・水道の一本化などにより全てを容易にコントロールすることができます。人々を文字通り都会に集中させることで全てのコントロールが可能になるのです。

この初めとなる都市の名前がバベルだったことに注目してください。最初に

第三の国は青銅（真鍮）の国、ギリシャです。神様はギリシャの特徴をアレキサンダー大王の凄まじいスピードで表しています。どうやって早く歩き、走ることができるでしょうか。腿の動きを速めることによってです。ギリシャは早く動くために必要な腿で表される通り素早く短い期間でその当時の世界を制覇しました。

「第四の国は、鉄のように強いでしょう。鉄は、よくすべての物をこわし砕くからです。・・・」ダニエル書 2:40

第四の国は脛の部分で、鉄で表されています。この国はとても強い国でした。聖書によるとこの帝国はことごとくすべてのものを支配下に置くと書かれています。この国はカイザル皇帝によって支配されていたローマ帝国を表していました。第四の国の後、面白い展開があります。



建てた場所がバベルでニムロデの王国の首都となるはずでした。バベルはバビロンの源でした。バビロンはネブカデネザルの都市でした。ニムロデはバビロンだけでなく更に三つの都市を築きました。しかし彼以外にも都市建設の仲間が居ました。その仲間の著名な一人がアッシュールでした。アッシュールはアッシリアという場所に大都市を築きました。

「その地からアッシュールが出て、ニネベ、レホボテイリ、カラ、およびニネベとカラとの間にある大いなる町レセンを建てた。」(欽定訳)創世記 10:11-12

これはどれも大都市でした。聖書の大いなる町とは大都市の事です。那覇市は大きい都市かもしれませんが、東京は更なる大都市です。一千万以上の人口です。大いなる都市とはそのような巨大都市のことでした。更に読み進めるとニムロデとアッシュール以外に、カナンという人がいました。カナンは更なる大都市を築き世界帝国を確立しようとしていました。

カナンは、さらに八つの都市を築きました。

「カナンびとの境はシドンからゲラルを経てガザにいたり、ソドム、ゴモラ、

アデマ、ゼボイムを経て、レシャに及んだ。」創世記 10:18-19

ガザという所は今も存在します。その他はほとんど滅んでしまいました。カナンは8つ、アッシュールは4つ、ニムロデは4つ、と合計16都市が建てられました。

## 2. 都市への関心

世界主義者(グローバリスト)たちは、都市建設に関心を持っています。

私は、世界主義者の著書を読んでいるんですが、彼らの書き物を読むと彼らの考えが分かります。今日のグローバリストも大都市に関心を寄せています。彼らによれば、2025年までに中国だけで300の新しい都市ができ、それぞれ人口100万人以上の都市になると言われています。現在既に建設されている都市をインターネットから衛星写真で見ることが出来ます。ある都市は未だ人が住んでいませんが、完成すれば田舎から人が詰めかけてくるという計画です。中東の砂漠地帯、ドバイという都市には超高層ビルがいたるところに建っています。又、ビルを建築中の大きなクレーンを見ることができ、更に大都市になろうとしているのが分かります。

なぜ大都市建設がなされるのでしょうか。その**鍵となる理由はコントロールです**。人口を集中させることで彼らを楽に支配できるのです。現在グローバリストは世界的支配権を復活させようとしています。町に行けば仕事が探しやすいなど、色々なことにおいて便利です。劇場・映画館など、楽しみで詰まっています。しかし都市は神様のご計画ではありませんでした。都市の本質ははなはだしく邪悪であり、神を恐れない人が一カ所に集中すると悪徳の広がりが加速化するからです。悪が都会のDNAに組み込まれています。犯罪、不道德、殺人、窃盗、詐欺、他では起こらない悪徳が大都市になればなるほど多くあります。田舎でも犯罪は起きますが、都会の犯罪は大規模集中型です。しかしグローバリストは犯罪増加などに関心はありません。民衆を支配することにしか興味が無いのです。エリート主義者の間で、都市は管制塔(コントロールタワー)と呼ばれています。空港の管制塔(コントロール・タワー)のように世界を支配するのです。

古代、三人の人物が合わせて16の都市を支配しました。家族が膨れ上がり人口が拡大しました。ニムロデは異教宗教の創設者です。バビロニア人、アッシリア人、カナン人はそれぞれ特有の宗教を持ち、偶像礼拝をしていました。最終的に自らの宗教を全国民に強制できるようにするために、ニムロデは世界制覇を望んだのでした。勿論これは神に敵対するものでした。



バベルの塔を更に詳しく見てみましょう。

「彼らは互いに言った。『さあ、町と塔とを建てて、その頂を天に届けよう。そしてわれわれは……全地のおもてに散るのを免れよう。』」創世記 11:3-4

彼らは巨塔を築きました。なぜですか?神様がまた大洪水を起こすのではないかと恐れていたからでした。その為、神の怒りから逃れ、身の安全を確保する避難場所を求めていました。グローバリストは「安全」に対して多大な関心を持っています。バベルの人々は神様の約束を信じていませんでした。世界規模の洪水を二度と起こさないとの約束を創世記 9 章 1 節で見ることができます。しかし彼らは神様を信じませんでした。そしてまた世界的な大洪水が来ると予測し高い塔を建てました。

### 3. セキュリティ(安全保障)にこだわる

世界主義者たちの第三の関心は安全でした。

人口を都市に集中させることで更に安全になると考えました。散らされることを望んでいませんでした。また神様が恐ろしいことをなされると考えていましたが、恐ろしいことをするのは彼らの方でした。

最近では監視カメラがいたる所にあります。銀行、会社、町の通り、安全のための監視カメラがいたるところにあ



ります。土地を守る壁と警報アラームが張り巡らされ、出入口は鉄格子で守られ、あるところは警備員まで配置されています。町のどこに行ってもセキュリティの策がなされています。初代グローバリストの思想は現在のグローバリストと同じです。

### 4. 共通の言語への関心

「全地は同じ発音、同じ言葉であった。」創世記 11:1

「(主は) 言われた。『民は一つで、みな同じ言葉である。彼らはすでにこの事をしはじめた。……』」創世記 11:6

神様が同じことを二度も言われるのは、それが重要だからです。

なぜ日本語、韓国語、中国語と色々あるのでしょうか?この起源はバベルにあります。バベルから言葉が乱れました。興味深いのはその理由です。神様はご自分に反逆する人々を見ました。一つの言葉なのに神様が言われることと反対のことをし始めました。神様は「地に満ちよ」と言われたのに、大都市に集中しました。神様は「地を減ぼす洪水は、再び起らない」と約束されたのに、彼らは「我らは神を信じない。我らは塔を建てよ」と言いました。彼らは神様から独立して自分勝手な道を歩もうとしました。人間の反逆と言語に密接な関係があります。当時の一言語での会話は、反逆を加速化させ、神の霊は彼らに留まることができなくなりました。言語とグローバリズムの間には密接な関係があります。グローバリストは共通言語に関心を持ち、共通言語により世界統一が円滑に進むことを知っています。共通言語は既に決まっています、英語です。グローバル化さ



れた世界で商売をしたければ英語を学ぶ必要があります。

「…彼らがしようとする事は、もはや何事もとどめ得ないであろう。」創世記 11:6

言い換えれば、彼らの思うことは何でもできる、ということです。何も彼らを抑制することができなくなっていました。人が悪の道に行くのを誰がとどめられるでしょうか。神の聖霊です。人の悪い願望を抑制できるのは神様の聖霊ですが人間を強制することは出来ません。聖霊の言葉である良心の声に逆らい続けるならば、心の声は弱まり聞こえなくなってゆき、最終的には全くその声が聞こえなくなり、聖霊はもはやその人をおしとどめることができなくなります。神様は、人間が自己中心の道を突っ走り聖霊の声が聞こえなくなったのを見ました。その為に神様は一つの言語から多くの言語に散らされました。初めは皆同じ言葉を話していました。しかしある日突然みんな違う言葉を話し始めました。那覇市でこのようなことが起こったらどうでしょうか。今日まではみんな日本語を話していたのに、明日になったら人口の5%が韓国語、他の5%がドイツ語、他の5%はスワヒリ語、他の5%はアラビア語を話し始めたら、那覇市は混乱状態に陥ります。明日起きてみたら皆違う言葉を話していたらどうでしょうか。神様が「下って行って、そこで彼らの言葉を乱し」た時、バベルではそのようなことが起こりました。共通言語はグローバリストの世界統一というもくろみを推し進めます。二ムロデの計画が熟したので神様は世界が悪の道に行くのを放っておくわけにはいきませんでした。

ここまでの世界主義者たちの原則をまとめてみますと：



- ① 神とその律法に対抗
- ② 都市への関心
- ③ セキュリティ（安全保障）へのこだわり
- ④ 共通の言語への関心ということになります。

次に観察してみたいことは：

## 5. 教育政策です。

聖書には興味深い記述があります。それはネブカデネザルの政府の事です。ダニエル書 1:3-4 を読んで見ましょう。

「時に王は宦官の長アシペナズに、イスラエルの人々の中から、王の血統の者と、貴族たる者数人とを、連れてくるように命じた。すなわち身に傷がなく、容姿が美しく、すべての知恵にさとく、知識があって、思慮深く、王の宮に仕えるに足る若者を連れてこさせ、これにカルデアびとの文学と言語とを学ばせようとした。」

ネブカデネザルもグローバリズムを目指していました。グローバル化を実現するために名案が彼にはありました。彼が制覇したあちこちから優秀な青年をバビロンに連れてきてバビロン人と共に文学を学ばせようとした。バビロン人と同じ考え方を植え付けようとした。グローバル化しようとする人たちは教育に関心を持っています。色んな国々から集めた青年たちをネブカデネザルは教育しました。



現代でも世界中のカリキュラムを変えようとしています。教育の原則をグローバリズムに合わせようとしています。私は最近ブラジルでグローバリズムについて教えていました。ある生徒がこう言ってきました。「私たちは大学生ですが、大学で学ぶことはいかにして生徒にグローバリズムについて考えさせるかで、生徒たちが地域について考えるようには教えられないのです」。オーストラリアで教えていたときに公立学校の教師をしている人から、生徒に教えることは「グローバリズムについてです」と聞きました。そうすることによって自分の国に帰り自分の国を治めるときにバビロニア人の思想を教えることになるのです。

天文学、数学についてバビロニア人は進んでいました。科学の分野にもエキスパートがいました。もちろん聖書が教えている天地創造を受け入れませんでした。つまり進化論者です。今日の科学者たちと同じです。ダニエルと3人の友人たちもカルデア人と同じ教育を受けましたが、彼らの哲学や宗教の影響を受けませんでした。彼らは神様から特別の祝福を受け、バビロニア人よりも優秀になっていました。しかしバビロンに行って早々から自分はバビロニアの原則から離れているとダニエルと3人の友人たちは宣言しました。偶像に捧げた食物を拒絶しました。これはバビロニアの哲学を受け入れない、染まらないことを態度で示しました。ダニエルは最終時代の獣に打ち勝つ預言的プロトタイプ（模範）でした。最終時代の神の民は神の原則を堅く保持するものです（ダニエル書 1:8）。

「ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めた・・・」

ダニエル書 2 章は、バビロンにおける預言的声の出現について書かれています。神様が大事なことを告げるときには預言を通して神の声を託しました。神様の言うことはネブカデネザルの気に入りませんでした。ダニエルを信頼していました。

## 6. 宗教をコントロールする欲求

ダニエル書 3 章にはグローバリズムの究極的な運命が記されています。礼拝を民衆に強要するという事です。最後の時代には同様のことが起こると聖書は預言しています。宗教的なグローバリズムは建設されつつあります。一般には語られることはありませんが確立されつつあります。ダニエル書 3 章は物語調になっていますが、預言なんです。最終時代の神の民の経験が記されています。神様のもとめと違う礼拝をすることを拒否すると死を意味しています。3 章では、ネブカデネザルが自らデザインした像が出てきます。2 章の像はいろいろな金属でできていましたが、3 章の像は全部が金です。つまり神様の預言とは違う道を目指していました。自分の国が永遠に続くことを願う、ネブカデネザルの野望が、この像に象徴されていたのでした。

最終時代の争点も同じです。神様が求める方法で礼拝をするか人間が指示する方法で、礼拝するかどちらかです。3 章において、ダニエルの友人たちは、同じ争点に直面しました。

さかのぼってカインは自分の勝手な方法で礼拝してよいと思っていました。神様は子羊を犠牲として求めました。アベルは神様に従って受け入れられました。ところが、カインは神様の要求に反抗して農作物を捧げようとしたが受け入れられませんでした。ダニエル書 3:2 には、大勢の高位高官たちが記されています。ネブカデネザルは、政治的秩序を、グローバル化〔世界的規模〕にしていました。**経済的秩序**もすでにグローバル化していました。

今や、**宗教的秩序**をグローバル化する準備が整っています。ネブカデネザル



ルがとった行動は政治秩序をグローバル化することでした。政治的に、すべてをバビロンの原則に従わせようとしてきました。すべての人を集めて金の像を拜ませようとしてきました。さらに経済のグローバル化を目指しました。最後に宗教のグローバル化を目指しました。

これによって政治、宗教、経済すべてを支配するつもりでした。ネブカデネザルにならって高官たちが集まりました。ダニエル書 3:2,3 を読みましょう。

大勢の高位高官たちをネブカデネザル王の立てたこの像の落成式に臨ませました。すなわち全世界からネブカデネザルを拜ませるために高官たちを集めたのです。

- ① 総督という身分は社会のエリートたちで隠れたところでいろんな操作をします。彼らは政治の表舞台には出てきませんが、秘密結社に属する人達です。今日多くの秘密結社があります。三極委員会、外国評議会、フリーメイソンとか多数の結社があります。社会で知られている事実です。日本にもあります。このような組織に属している人物が総督と呼ばれていました。
- ② さらに知事という位の人たちが集められました。それぞれの地域を任せられて支配している人たちです。アメリカではオバマ大統領、日本では野田総理です。そういった人たちがそれぞれの場所を治めています、そのような人たちも金の像を拜むように集められました。最終時代にも、知事の地位にいる人たちが集められます。
- ③ 長官という身分は軍の指導者たちです。軍隊も宗教のグローバル化を支持します。
- ④ 参議は判事つまり裁判官です。彼らは司法制度の代表です。司法制度もグローバル化を後押しします。
- ⑤ さらに庫官も集められました。



現代で言うと銀行家たちの事です。彼らも金の像を拜むために集められました。ヨーロッパ中央銀行の長も庫官と同じ身分です。

ダニエル書 3:3 を続けて読みます。

- ⑥ 法官=法律家たち
- ⑦ 高僧は警察官たちです。

ダニエル書 3:4 における、もう一つの興味深い特徴。

- ⑧ 伝令=マスコミ

「時に伝令者は大声に呼ばわって言った。」

諸政府は、自分たちの法令や活動を伝えるのに、マスコミを用います。マスコミもグローバル化を後押しする役割を持っています。マスコミを利用して、自分たちの計画を押し勧めようとしています。

ネブカデネザルは政治・経済の秩序を統合し、最後に宗教を統合しようとしてきました。

国連は、政治的秩序を統合しつつあります。経済危機は、経済的秩序を中央集権化させるためのもくろみを持っています。欧米は、中央集権の確立をもくろんでいます。現在起こっていることは、グローバルズム最後の試み：グローバル宗教を再び世界的に強要するのです。ネブカデネザルは宗教を強要しようとしてきました。神様が介入したので、ネブカデネザルの計画は挫折しました。ネブカデネザルを拒むものは死刑でした。

黙示録 13:8 を読みましょう。

「地に住む者で、世の初めからほふられた小羊のいのちの書に、その名をされるされていない者はみな、この獣を拜むであろう。」(欽定訳)

これは最終時代に現れる反キリスト宗教です。宗教政治権力が起こって全世界をグローバル化できるのは一つの宗教しかありません。その勢力は一つしかないのです。グローバル政治勢力、宗教勢力を牛耳っているのはすでに存在していて昔から存在しているローマ・カトリックです。自らの権力をとり戻し、宗教的な法律を打ち立てようとしてすでに働いています。

「それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拜まない者をみな殺させた。」黙示録 13:15

グローバル化の最後の試みは死刑と脅しが来ます。エホバの神に忠実な者、現代のダニエルたちは、ジレンマに直面することでしょう。今日の霊的なバビロンの原則はかつての原則と同じです。ローマの原則は日曜礼拝なのです。世界的な日曜礼拝の法律が、未来において制定されるであろうと、聖書に示されています。ローマが全世界の民衆を支配しようとしています。

黙示録 13:16 - 17 :

「また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押しさせ、この刻印または獣の名、またはは





その名の数字のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。」

つまり、宗教的なグローバル化によっ

て獣の名を拝むものは獣の刻印を受けると聖書は言っています。小羊の命の書に名を記される者は、小羊に従っていく、すなわちイエス様の業を行うのです。つまりキリストがお求めになる方法を用いるのです。多くの人は、大多数の人にならうことによって、カイン

の方法を正しいと思うようになるでしょう。神様が禁じる礼拝であってもです。

ヨハネ 4:23 で、イエスは「真の礼拝者たちは、霊とまことをもって礼拝するであろう」と言われました。ほとんどの人は、まごころから礼拝するとはどういうことか理解できるが、真理が何かを知らないの、まことをもって〔真理のうち)に〕礼拝することができないのです。神は、ご自分の民が、正しい道であるいにしえの道に立ち戻ることを望んでおられます。

「あなたがたはわかれ道に立って、よ

## ニュースウォッチ

### 世界が滅亡するとのうわさを流布している宗教団体「全能神」への取り締まりを強化



【北京 2012年 12月 20日 ロイター】  
中国当局は、21日に世界が滅亡するとのうわさを流布している宗教団体「全能神」への取り締まりを強化し、国営メディアによると、これまでにメンバー約1000人を拘束した。

当局側は過去数週間、全能神への圧力を強めており、インターネットのミニブログに投稿された写真によると、河南省や陝西省、甘肅省では政府関連ビル周辺などでメンバー数百人と警察が衝突した。

政府側は、全能神が古代マヤ文明の暦をもとに今年21日に「人類滅亡」を迎

えるとする説を広め、共産党打倒に向けて「断固たる闘争」を呼びかけていると説明している。

20日付の人民日報電子版によると、これまでに拘束された全能神メンバーは7省で約1000人に上り、うち約400人が青海省に勾留されているとしている。

#### コメント

我々聖書の預言を信じる者にとって、この宗教団体が広めている説は全くのデマであることがわかる。マヤ文明の末裔でさえ、その事は信じていない。世の終わりではなく、その前兆であることは確かである。紀元70年のエルサレム滅亡は、世の終わりの象徴であるとイエス・キリストは言われた。しかし、キリストの再臨の前に、順序良く起きる出来事がダニエル書、黙示録にはっきり書かれている。エルサレム滅亡の前に一人の狂人がエルサレム滅亡を叫んでいたようなものだろう。

注意すべきこと！！ こういう現象が起こったからと言って「確実な預言」に従って、ローマによる新世界秩序が迫っている事、かつてない大患難の時が来ることを告げるべき最後の真の教会が時の切迫を告げる使命感を失うことである。三天使の使命は、警告の使命、永遠の福音である。

### ローマ法王ベネディクト16世の世界政府と新世界秩序への呼びかけ

カトリック教会のリーダーであるローマ法王ベネディクト16世は、世界政府とNWO(新世界秩序)の設立を求めています。

12月3日に開催された正義と平和のための高位聖職者会議でのスピーチの中で、ローマ法王は人類の共通の利益のために世界統一政府の下で世界社会を築く必要があると訴えました。ローマ法王は、世界平和と正義を守る手段として世界統一政府とNWOの設立を訴えており、これは一つのスーパーパワーを生み出すことを示すものではないと言っています。しかし、法王のビジョンによると、世界を支配するために様々な法律や規則を作る権威を与えられた政治家により新たな統治機構が維持されることになるのです。また、法王は、法律により限定された権力者の下で影響力を行使する道徳的機構或いは当局が世界政府を維持するというビジョンを示しました。

法王やカトリック教会による最近のこのような発言はそれほど驚くべきことではありません。なぜなら、2010年に、カトリック教会は、世界の金融業界や国際貨幣供給を管理するために新たな世界中央銀行を創設するように求めたのです

く見、いにしへの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。」  
エレミヤ 6:16

みなさん、真の安息を得たいと思いませんか？ 私たちは、イエス・キリストの求められることを行なわなければなりません。最終のテストはキリストに従うかどうかです。イエス様は、律法の一点一画でも廃するために死なれたのではありません。十戒は今でも神様が求める礼拝の方法を示しています。ローマは、日曜日を礼拝するように求めています。今日いろんな混乱があります。クリスチア

ンの中でも混乱しています。多くのクリスチアンは十戒は廃されたと考えています。皆さんはどの側につきたいですか？ 神様の側ですか？それとも人間の法律ですか？ 一人一人が選ぶことが出来るようになっています。ダニエルたちのように従うことが出来ます。

グローバリズム〔世界主義・地球規模の政策〕とは、神ではなく、人間に従わせようとする政策のことです。世界を支配しようとするグローバリズムの運命を示したいと思います。ダニエルたちのように私たちも、世から要求されますが、グローバリズムの哲学に染まる必

要はありません。賢くならないといけません。それでも神の知識を持たず、神の御心を知らないままで、最終時代の特殊な状況を切り抜けていくことは不可能です。神様の知識を探り調べて知っている必要があります。娯楽に捕らわれず、ほとんどの宗教家が陥っているように怠惰にならず、自分で聖書を調べて熱心に探究してほしいのです。世の中のライフスタイルに染まらないでください。それは心を汚してしまいます。切り抜けるには清い心を持つことです。神様が皆さんを豊かに祝福してくださいように。

から。パチカンは、世界の経済政策の決定を行うための世界的な視野での普遍的な超国家的統治機構を求めたのです。中国とロシアの急接近、国連によるインターネットの管理そしてカトリック教会による最近の発言など、これら一連の動向は、二度と元に戻ることができない世界へ人類を陥れる NWO の設立に向けたものなのです。

<http://oka-jp.seesaa.net/article/307249685.html>  
<http://www.theglobalistreport.com/vatican-world-government-new-world-order/>

## 英国王室とカトリックの結婚式がまもなく？

300 年間、英国王と王妃は、プロテスタント（聖公会）でなければなり



ませんでした。彼らは英国国教会の頭だったので、カトリック教徒と結婚することができませんでした。しかし、まもなく、彼らは 3 世紀の断絶に終止符を打ち、ローマ・カトリック教徒と結婚することを許可されるでしょう。

デイビッド・キャメロン首相は、教派を超えた結婚を許可するために法律を変更する予定です。彼はまた、後継者のために、女性よりも男性優先の長子相続権を終了することも計画しています。

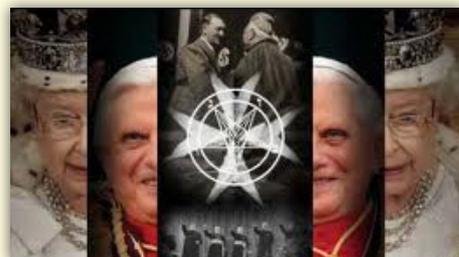


新しい法律は、君主自身が聖公会でなければならぬという条件は変えないでしょう。やはり、カトリックが英国国教会の長となることはできません。しかし、それは、ヘンリー 8 世の治世下で宗教改革以来断絶していた二つの教会の関係に記念すべき変化が起こっていることを表しています。

『「ローマ・カトリックになる人やローマ・カトリックと結婚する人は誰でも、王位を継承することは不適格である」との法律を取り除く変革がなされるであろう。』※ 1

これまでのところ、イギリス連邦の 16 の領域は、この法案に同意しており、現在、政府はできるだけ早い機会に議会に法案を提出する予定です。

「ヴィンセント・ニコルズ、ウェストミンスター大司教、イングランドおよびウェールズのカトリック司教協議会会長は、この動きを賞賛した。『これは、カトリック教徒に対する不当な差別を排除し、カトリック教徒ばかりでなく、もっと広く歓迎されるだろう』と、述べた。』※ 2



歴史的には、過去にカトリック教徒との結婚を許した国においては、カトリック勢力の増大につながっていきました。その典型的な例は、クローティルダがフランスのクロヴィス王と結婚したときでしょう。

イギリスの国家と社会は、リベラルで非常に寛容ですが、教会と国家の分離はありません。法的障壁が除去されると、カトリック教会がイギリスの君主や政府の支配者たちにもっと多くの影響を与える道を開くことになるでしょう。

「すべての国民は、彼女の姦淫に対する激しい怒りのぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と姦淫を行い、地上の商人たちは、彼女の極度のぜいたくによって富を得たからである。」黙示録 18:3

※ 1 <http://religion.blogs.cnn.com/2012/12/05/catholics-to-be-allowed-into-the-royal-club-sort-of/>

※ 2 <http://www.catholicherald.co.uk/news/2011/10/31/ban-on-british-monarch-marrying-a-catholic-to-be-lifted/>  
<http://www.ktfministry.org> より

# 真の清め

花城 健

今日宗教界で注目されている清めには、自己賞揚の精神と律法の無視が伴っている。これは聖書の教える真の福音でもなければ清めでもない。真の清めは、これとは全く反対で、キリスト者を謙遜にし、心も生活も愛の律法の原則に調和したものに変わっていくものである。

前半は、真の清めとは何かという事について具体的に考えてみたいと思う。後半には真のきよめの実例を愛された弟子ヨハネの生涯に見てみたいと思う。

## I. キリスト者の目標

- ▶ 「神のみこころは、あなたがたが清くなることである。」第一テサロニケ 4:3
- ▶ 「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるようにと祈っている。」第一テサロニケ 5:23
- ▶ 「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」マタイ 5:8
- ▶ 「キリストがそうなされたのは、水で洗うことにより、言葉によっ

て、教会をきよめて聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。」エペソ 5:26,27

- ▶ 「目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」ピリピ 3:14
- ▶ 「そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初歩をあとにして、完成を目ざして進むのではないか。」ピリピ 6:1

## II. 真の清めとは

聖書の清めは律法の原則と調和した品性を形成すること

「聖書は、清めとは何であって、どのようにしてそれに到達できるかを、はっきりと教えている。救い主は、弟子たちのために祈って、『真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります』と言われた(ヨハネ 17:17、19 参照)。使徒パウロは、信者たちに、『聖霊によってきよめられ』るようにと教えた(ローマ

15:16)。聖霊の働きは、何であろうか。イエスは、弟子たちに次のように言われた。『けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう』(ヨハネ 16:13)。詩篇記者も、『あなたのおきてはまことです』と言っている。神の言葉と聖霊によって、神の律法の中に現われている義の大原則が、人間に示される。そして、神の律法は、『聖であって、正しく、かつ善なるものであり、神の完全の写しであるから、その律法に従って形造られる品性も、清いものとなる。キリストは、このような品性の完全な模範である。…神の恵みによって、神の聖なる律法の原則に調和した品性を形成しなければならない。これが聖書のいう清めである。』各時代の大争闘下 197

真のきよめは完全な愛、完全な従順、神のみこころへの完全な一致を意味する

「真のきよめとは、神への奉仕に専心することである。これが真のクリスチャン生活の条件である。キリストは、何一つ保留しない献身、完全な奉仕を求めておられる。キリストは、心と思いと魂と力とをご要求になる。自己

に執着してはならない。自己のために生きるものは、クリスチャンではない。愛が行為の原則でなければならない。愛が、天地間の神の政府の基本的原則である。そして、これがクリスチャンの品性の基礎となるべきものである。この愛のみが、クリスチャンを堅く立たせてささえるものである。これのみが、彼を試練と誘惑に勝たせるのである。…

もし、わたしたちが、イエスを愛するならば、イエスのために生き、感謝のささげ物をし、イエスのために働くことは、何よりの楽しみとなる。主の働きは、やさしいのである。イエスのためならば、痛みも苦しみも犠牲も喜んで忍ぶのである。イエスが人びとの救いを、熱望されたと同じように、わたしたちも魂を熱く愛し、イエスが魂に同情なさったようにわたしたちも感じるようになるのである。

これがキリストの宗教である。ここまで達しないものは偽りものである。真理に関する単なる理論を唱え、弟子であることを表明するだけでは、魂を救い得ない。全くキリストのものでないとすれば、全然キリストに属していないのである。人びとの意志が薄弱で、うつり気なのは、クリスチャン生活が中途はんぱだからである。」キリストの実物教訓 25, 26

「真のきよめは完全な愛、完全な従順、神のみこころへの完全な一致を意味する。われわれは真理に従うことによって神へときよめられる。われわれの良心は、死んだ働きから生きた神に仕えるためにきよめられなければならない。われわれはまだ完全ではない。しかし利己心と罪のもつれから切り離されて、完全へと進むことはわれわれの特権である。大きな可能性、高きよらかな完成がすべての者の手の届くところに置かれている。

この現代の世において、多くの者たちがきよい生活にもっと大きな進歩を見せない理由は、彼らがしようと思う程度にしか神のみこころを解釈していないからである。自分たちの望み通りにしていながら、彼らは神のみこころに従っているとぬぼれている。このような人々は自己との戦いが無い。また、その他、快楽や安楽を求める利己的な願いとの戦いに一時の間、うまく成功している者たちもいる。彼らは誠実で熱心であるが、長びく努力、日ごとの死、絶え間ない不安に疲れてくる。怠惰が心を奪い、自己に死ぬことが拒絶されているようである。そして、彼らはものうい目を閉じ、誘惑の力に抵抗せずに、それに屈してしまう。」患難から栄光へ下 268, 269

## 清めは信仰によってのみ達成される

(罪の誘惑との戦いとキリストの援助)

「この(清めの)働きは、キリストを信じる信仰によってのみ達成されるもので、神の霊の内住の力によるのである。パウロは、信者たちに次のように勧告している。『恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである』(ピリピ 2:12,13)。キリスト者も罪の誘惑は感じるが、しかし常にそれと戦い続ける。ここにおいて、キリストの援助が必要になる。人間の弱さが神の力と結合する。(第一コリント 15:57)」各時代の犬争闘下 197, 198

## 真のきよめは漸進的

「聖書は、清めの働きが、漸進的なものであることをはっきりと示してい

る。罪人が悔い改めて、贖罪の血によって神と和解するとき、キリスト者の生活ははじまったばかりである。彼は、『完全を旨として進』み、『キリストの満ちみちた徳の高さにまで』成長しなければならない。使徒パウロは言っている。『わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事(いちじ)を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を旨として走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである』(ピリピ 3:12 ~ 14)。」各時代の犬争闘下 198

## 感じだけでは、きよめのしるしではない

「時には暗黒と失望が心を襲い、われわれを圧倒しそうになるが、われわれは自分の確信を放棄してはならない。われわれは、感じて感じなくても、イエスを見つめていなければならない。わかっている義務は、すべて忠実に果たすようにつとめ、そして神のみ約束に静かにこころをこらすのである。

時には自分に対する深い無価値感で恐怖に心がおののくことがあるかも知れないが、これは、神のわれわれに対する、あるいは、われわれの神に対する関係が変わったという証拠ではない。精神が、ある種の強烈な感情を抱くような努力はすべきではない。われわれは昨日感じた平安や喜びを今日は感じないかも知れないが、しかし、信仰によってキリストのみ手をつかみ、光の中にある時と同じように暗黒の中でも全く彼に信頼しなければならない。」教会への勧告上 215

## 全人的な清め

「聖書に示されている清めとは、全存在一霊と魂と体一を含むものである。パウロは、神がテサロニケの人々の『霊と心とからだ』とを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように』と祈った（第一テサロニケ 5:23）。また、信者たちに、『兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧めらる。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい』と彼は書いた（ローマ 12:1）。昔のイスラエルの時代において、神に犠牲として献げられるものは、みな、注意深く調べられた。その動物にもし一つでも欠陥があれば、それは拒否された。なぜなら、神は、供え物は『傷のないもの』でなければならないと命じられたからである。そのように、キリスト者は、自分たちのからだを、『神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として』ささげるように命じられている。そうするためには、彼らのすべての能力を、なすうる最上の状態に保たなければならない。……彼らは、食欲や情欲をほしいままにして、彼らの天の父にささげる供え物を弱めたり汚したりしないのである。

ペテロは、『たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい』と言っている（第一ペテロ 2:11）。すべての罪深い満足は、機能をまひさせ、知的霊的知覚力を鈍らせる。そして、神の言葉や聖霊も、心になんの印象も与えることができなくなるのである。パウロは、コリント人に次のように書いている。『肉と霊とのいつさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなるうではないか』（第二コリント 7:1）。…

このような 霊感の言葉があるにもかかわらず、利益や流行を追ってその能力を弱めている自称キリスト者たちが、なんと多いことであろう。また、

暴食、飲酒、放蕩などによって、神のかたちである人性を堕落させているものが、なんと多いことであろう。しかも教会は、これを譴責するどころか、かえって食欲に訴え、物欲や快楽を愛する心に訴えることによって、こうした害悪を助長し、キリストに対する愛が弱いために供給できない教会の資金を、補充しようとするのである。もしキリストが、今日の教会に入ってくられ、宗教の名のもとに行なわれている飲食と汚れた取り引きを見られるならば、昔、神殿から両替人たちを追い出されたように、これらの神を汚す人々をも追い出されないであろうか。」各時代の争闘下 203

## 清めと日常生活

「『あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買とられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい』（第一コリント 6:19、20）。自分の体が聖霊の宮であるものは、有害な習慣の奴隷にはならない。彼の能力は、血の代価をもって彼を買取られたキリストに属している。彼の持ち物は主のものである。この託された資本を浪費するならば、どうして罪を免れることができるか。…」各時代の争闘下 204

## キリストにある勝利の生活

「キリスト者の生涯は、謙遜がその特徴であるが、悲しみや自己を卑下する気持ちがあってはならない。神に受け入れられ祝福されるような生活をすることは、すべての者の特権である。われわれが、常に罪の宣告と暗黒の

もとにあることは、われわれの天の父のみこころではない。頭をうなだれて、自分のことばかりを考えているのは、真の謙遜の証拠ではない。われわれは、イエスのところへ行って、清められ、律法の前にはばかることなく立つことができるのである。『こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない』（ローマ 8:1)。…

キリスト者の生活は、信仰と、勝利と、神にある喜びとの生活でなければならぬ。『なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である』（第一ヨハネ 5:4）。神のしもべ、ネヘミヤが、『主を喜ぶことはあなたがたの力です』と言ったのは至言である（ネヘミヤ記 8:10）。パウロも言っている。『あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。』『いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである（ピリピ 4:4、第一テサロニケ 5:16-18)』。

これが、聖書のいう悔い改めと清めの実である。しかし、神の律法に示された義の大原則が、キリスト教界において冷淡に扱われているために、こうした実はほとんど見る事ができない。これが、かつてのリバイバルにあらわれたような神の霊の深い永続的な働きが、ほとんど見られない理由である。

われわれが変化するのは、ながめることによってである。神がご自分の品性の完全さと神聖さを示されたこれらの聖なる戒めを、人々がなござりにし、人間の教えや理論に心をひかれるならば、教会内で生きた敬虔の念が低下しても少しも不思議ではないのである。…

神の律法が、その正当な位置に回復されて初めて、神の民と称する人々の間に、初代の信仰と敬虔のリバイバルが起り得るのである。」各時代の  
大争闘下 207-209

### Ⅲ. 清めの実例

聖書のいう清めを経験する者は  
謙遜の精神をあらわす

#### ● モーセ

彼らは、モーセのように、聖なるお  
かたのおそるべき威光をながめ、無  
限のおかたの純潔と崇高な完全さと  
比べて自分たちの無価値なことを認  
めるのである。

#### ● ダニエル

預言者ダニエルは、真の清めの  
実例である。彼の長い一生は、主の  
ための気高い奉仕に満ちていた。彼  
は、神に「大いに愛せられる人」で  
あった（ダニエル書10：11）。しかし  
ながら、この榮譽にあずかった預言  
者は、自分の純潔と清さを主張しな  
いで、自分を真に罪深いイスラエル  
のひとりのみならず、自国民のために神  
の前で懇願した。「われわれがあな  
たの前に祈をささげるのは、われわれ  
の義によるのではなく、ただあなたの  
大いなるあわれみによるのです。」「わ  
れわれは罪を犯し、よこしまなふるま  
いをしました。」ダニエルは「こう言  
って祈り、かつわが罪とわが民の罪をざ  
んげ」したのである。そして、後に、  
神のみ子が現われて、彼に教えをさ  
ずけられたとき、「わが顔の輝きは恐  
ろしく変って、全く力がなくなった」と  
ダニエルは言っている（ダニエル書9：  
18,15,20,10：8）。

#### ● ヨブ

ヨブは、つむじ風の中から主の声を

聞いたときに、「それでわたしはみず  
から恨み、ちり灰の中で悔います」と  
叫んだ（ヨブ記42：6）。

#### ● イザヤ

イザヤは、主の栄光を見、ケルビ  
ムが「聖なるかな、聖なるかな、聖  
なるかな、万軍の主」と呼ばれるのを  
聞いて、「わざわいなるかな、わたし  
は滅びるばかりだ」と叫んだ（イザヤ  
書6:3,5）。

#### ●パウロ

パウロは、第三の天にまで引き上げ  
られ、人間には語ることのできない言  
葉を聞いた後、自分のことを、「聖徒  
たちのうちで最も小さい者である」と  
言っている（コリント第二・12：2-4  
参照。エペソ3：8）。

#### ● 特にヨハネの経験について

「愛する者たちよ。わたしたちは今  
や神の子である。しかし、わたした  
ちがどうなるのか、まだ明らかではな  
い。彼が現れる時、わたしたちは、  
自分たちが彼に似るものとなること  
を知っている。そのまことの御姿を見  
るからである。」第一ヨハネ3：2

彼が現れる時とはいつのことか？そ  
れは、キリスト再臨のときか？もしそ  
うであれば、私たちは再臨まで彼に似  
るものとなれないのか？この言葉を書  
いた、愛された弟子ヨハネの経験そ  
のものから、キリスト再臨を待たなく  
ても、私たちはキリストのまことのみ姿  
を見て、彼に似るものとなることのできる  
ことを学んでみたいと思う。

#### ヨハネの初めの状態

「ヨハネは、のちの経験にあらわれ  
ているような美しい品性を生まれつき  
持っていたのではなかった。彼には生  
まれつきのひどい欠点があった。高慢  
で、身勝手に、名誉欲が強かったば

かりでなく、激しい性質で、侮辱され  
ると憤慨した。彼とその兄弟たちは『雷  
の子』と呼ばれていた。短気、復讐心、  
批判的精神といったようなものがすべ  
てこの愛された弟子の中にあつた。し  
かしこうしたすべてのものの下に、天  
来の教師イエスは、熱心で、誠実で、  
愛すべき心を認められた。イエスは  
彼の身勝手を譴責され、彼の野心を  
くじいて、信仰を試めされた。しかし  
イエスは、ヨハネの魂が求めていたも  
の、すなわち、聖潔の美、愛の改変  
力を彼にお示しになった。

ヨハネの性格の中にある欠点が、  
救い主と個人的に交わるうちに数回、  
強く前面にあらわれた。…

弟子たちは、キリストがお立ち寄  
りになってサマリア人を祝福なさろうと  
していたことを知っていた。そして、  
村人が主に示した冷淡さと、嫉妬と、  
不遜さに弟子たちは驚き、憤慨した。  
ヤコブとヨハネは特に気を荒立てた。  
彼らが深く尊敬している方がこのよ  
うなあしらいを受けたことは、直ちに罰  
せず見過ごしにすることが到底できな  
いほど不当であるように彼らには思え  
た。『主よ、いかがでしょう。彼らを  
焼き払ってしまうように、天から火をよ  
び求めましょうか』と、彼らは、預言  
者エリヤのところにつかわされたサマリ  
ヤの長とその部下たちが焼き尽くされ  
たことを引用して、熱心に言った。二  
人はイエスが、彼らの言葉に胸をい  
ためられたのを見て驚いた。そして、  
イエスの譴責が耳もとに落ちてきたと  
きに彼らはもっと驚いた、『あなたがた  
は自分たちがどのような霊の状態にあ  
るのかを知らないのです。人の子が  
来たのは、人のいのちを滅ぼすため  
ではなくそれを救うためです』（ルカ9：  
54-56・新改訳聖書）。

強制的にキリストを受け入れさせる  
ことは、キリストの使命にはない。そ  
れはサタンであり、良心を強制しよ  
うとするのはサタンの霊に踊らされてい

る人々である。悪天使と同盟する人々が時々、正義に対する熱意をよそおい、自分たちの宗教的な考えに改心させようと仲間を苦しめている。しかしキリストは常にあわれみを示され、愛をお示しになって導こうとしておられる。キリストは人の心に競争相手を認めることも、生半可な奉仕を受け入れることもおできにならない。ただ、主は自発的な奉仕、愛に強いられて気持ちよく服従する心を望まれる。」患難から栄光へ下 242, 243

## 生まれつきの欠点があっても 神の恵みの力によって 変えられる

「ヨハネの生涯に見られるような性格の変化は、常にキリストと交わっていたために与えられたものである。人にはそれぞれ性格に目立つ欠点があるかもしれない。しかしその人が、キリストの真の弟子になると、神の恵みの力により変えられ、きよめられるのである。彼は主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、崇拜する主と同じ姿に変えられていく。」患難から栄光へ下 262

## ヨハネはキリストの品性を見て 真のきよめを経験した

「ながめることによって変化するのは、人間の精神の法則である。」  
人類のあけぼの上 89

「弟子ヨハネの生涯に、真のきよめとは何かということが例示されている。キリストと親密に交わった数年間に、ヨハネはしばしば救い主から戒めと注意を受けた。そして彼はこうした叱責を受け入れた。聖なるかたのご品性が現されたとき、彼は自分の欠

点を認め、その啓示によって謙遜にされた。毎日彼は自分の激しい気性とくらべて、イエスの柔和と寛容を見、謙遜と忍耐の教訓を聞いた。毎日彼の心はキリストに引きつけられ、ついには主に対する愛によって自己がかき消されていった。ヨハネが神のみ子の日常生活の中に力とやさしさ、威厳と柔和、強さと忍耐を見たとき、彼の心はただ、感嘆するばかりであった。彼は自分の憤慨しやすい、野心的な性質をキリストの形成する力にゆだねたので、天来の愛が彼のうちに働いて、品性を一変させたのである。」患難から栄光へ下 260

「ヨハネは敬慕と愛を抱いて救い主を見つめているうちに、キリストに似た者となった。そしてキリストと交わることが彼の一つの望みとなり、ついには彼の性格のうちに主のご品性が反映するようになった。」患難から栄光へ下 248

「ヨハネは、愛や同情や交友にあこがれる性質を持っていた。彼は、イエスのそば近くにおし進み、そのかたわらにすわり、イエスの胸にもたれかかった。花が太陽と露をもとめるように、彼は天来の光と生命を吸いこんだ。愛と崇敬の念をもって救い主を仰ぎ見ているうちに、キリストのみかたちに似ることとキリストと親しく交わることが、彼の唯一の願いとなり、彼の品性には主イエスのご品性が反映した。彼はこう言っている。『わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとな

ることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいただいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする』(第一ヨハネ 3:1, 2)。」教育 90

## ヨハネは誰よりも服従した

「キリストの教えは、恵みに成長し、みわざにふさわしいものとなるために欠くことのできない柔和と謙遜と愛を説くもので、ヨハネに最も貴重なものとなった。彼は一つ一つの教えを大事にして、絶えず自分の生活を聖なる模範に一致させる努力をした。ヨハネはキリストの栄光を見分けはじめていた。彼がこれまで追い求めるよう教えられてきた世的なはなやかさや権威ではなく、『父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちて』いるものであった(ヨハネ 1:14)。

キリストに対するヨハネの愛情の深さと熱烈さは、ヨハネに対するキリストの愛を引き起こしたのではなく、かえってヨハネに対するキリストの愛の結果生じたものである。ヨハネはイエスのようになりたいと望んだ。そして、キリストの愛の人間を変える感化力のもとに、彼は柔和で謙遜になった。自己はイエスの中に隠された。ヨハネは仲間たちのだれよりも、その不思議ないのちの力に服従した。…救い主は十二人の弟子たちみんなを愛されたが、ヨハネの気持ちは最も受容性に富んでいた。」患難から栄光へ下 246, 247

## ヨハネは迫害の中にも 十字架の影を歩んだ

(清められたヨハネは、自分を清いものと感じなかった)

「ヨハネは明瞭に、説得力を持って

弁明した。しかも非常に単純、率直であったので、彼の言葉には力強い効果があった。聞く者たちは彼の知恵と雄弁に驚いた。しかし彼のあかしに説得力があればあるほど、反対者たちの憎しみは深まった。ドミティアヌス皇帝（ローマ皇帝（81-96）；専制的で、元老院を無視し、批判する者を弾圧、暗殺された）は激怒した。彼はキリストの忠実な支持者ヨハネの論法を論駁することも、ヨハネが真理を語るときに伴った力に対抗することもできなかった。それでも彼は、必ずヨハネの声を沈黙させようと決意した。

ヨハネは煮えたぎる油の大がまの中に投げ込まれた。しかし主は、燃えさかる炉の中の三人のヘブル人を守られたように、この忠実なしもべのいのちを守られた。こうして欺瞞者ナザレのイエス・キリストを信じる者たちはみな滅びると、言葉が語られたとき、ヨハネは、わたしの主は、サタンとその天使たちが主を辱め苦しめようと計るすべてのことを、辛抱強く受けられるのであると、言明した。キリストは世を救うために命をささげられた。わたしは主のみわぎのために苦しむことを許され、光栄である。わたしは弱く、罪深い者であるが、キリストはきよく、罪のない、純潔なかたであった。主は罪を犯さず、語られることばにも悪意は見られなかった。

これらの言葉には影響力があった。ヨハネは、彼を大がまに投げ込んだ同じ男たちによって、大がまから出された。

再び迫害の手が使徒ヨハネの上に重くのしかかった。皇帝の命令によりヨハネは『神の言とイエスのあかしとのゆえに』有罪を宣告されて、パトモス島に追放された（黙示録 1:9）。患難から栄光へ下 273

そしてそこでヨハネは黙示録を書いた。決定的だと思われた敵の攻撃も神の働きを前進させただけであった。

## 真のきよめは 真の悔い改めから生じる

「悔い改めとは罪を悲しむことと罪を離れることを含みます。人は罪の恐ろしさを知るまでは罪を捨てるものではありません。心の中で全く罪から離れなければ、生活にほんとうの変化は起らないのであります。」キリストへの道 22

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」第一ヨハネ 1:9

## IV. 最後の世代の教会

「キリストの教会を最も危うくするものは、この世の反対ではない。教会を最も深刻な不幸に陥れるものは、信者たちの心に隠された悪であり、それは最も確実に神のみわぎの進展を遅らせる。ねたみ、疑い、あさがし、悪意ほど霊性を弱めるものはない。一方、神の教会を構成しているいろいろな性質の人たち間における調和と一致は、神がみ子をこの世におつかわしになったことを最も確かにあかしするものである。このようなあかしをたてることが、キリストに従う者たちの特権である。しかしこれを行うためには、彼らはみずからキリストの戒めに服さなければならない。品性がキリストの品性に、また、意志がキリストの意志に調和しなければならない。

『わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい』と、キリストは言われた（ヨハネ 13:34）。何とすばらしいことばであろう。しかし、何と実行されていないことばであろう。今日神の教会には兄弟愛がはなはだ不足している。救い主

を愛していると公言する者たちの多くが、互いに愛し合っていない。」患難から栄光へ下 252, 253

## V. 後の雨による完成

聖書では聖霊の働きを雨でたとえている。イスラエルでは、秋の種まきの時に降った雨を先の雨、あるいは前の雨と呼んだ。春の穀物の収穫の時に降る雨を後の雨と呼んだ。それは、キリスト者の品性の成長と成熟を表す。穀物が熟すると収穫して倉に納めるように、キリストが収穫においてになる時には我々の品性は全く清まっていなければならない（エペソ 5:27、黙示録 14-16）。

### 前の雨の祝福（ヨハネが経験した清め）を受けることは 後の雨の祝福（144,000が経験する清め）を受けること

「初めに露と雨が発芽のために与えられ、そして次に収穫の実りのために与えられる。このように我々の霊的成長の過程でも、一つの段階から次の段階へと進ませるように聖霊が与えられるのである。穀物が熟することは、魂の内に神の恵みの働きが完成することを表している。聖霊の力によって、神の道徳のみかたちが品性のうちに完成されるのである。我々は、キリストに似る者となるまで全く変えられなければならない。

地の収穫物を成熟させる後の雨は、教会を人の子イエスの来臨に備えさせる霊的な恵みを表している。しかし、もし前の雨が降らなければ、生命はなく、緑の葉は芽を出さない。前の雨がその働きをしなければ、後の雨は種を完成させることができないのである。」 Testimony to the Ministers 506（聖霊に導かれて下 308,309）

「すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのだから、だれひとりとして、『慰め—後の雨』にあずかることができないのを、わたしは見た。」初代文集 150

「我々の品性にたった一つでもしみや汚れがある間は、神の印を受ける者は一人もいないであろう。品性の欠陥を直し、すべての汚れから心の宮を清めることは、われわれに託されている。それがなされたとき、前の雨がペンテコステの日に弟子たちの上に降ったように、後の雨が我々の上に降るのである。」最終時代の諸事件 112

## VI. 最後のイエスの仲保による特別な清め

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。…神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。」各時代の大争闘下 397

### 144,000清潔の完成を経験する

「救い主の仲保の恵みにあずかりたいと思うものは、神を畏れつつ**聖潔を完成**していくというその義務を何ものにも妨げられてはならない。」各時代の争闘下 221

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、**清めの特別な働き、すなわち罪の除去**が行なわれなければならない。この働きは、黙示録 14 章の使命の中にさらに明瞭に示されている。

この働きが成し遂げられると、キリストの弟子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである。『その時ユダとエルサレムとのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる』(マラキ 3:4)。その時、主が再臨されてご自分のもとに受け入れられる教会は、『しみも、しわも、そのたぐいのもがいっさいなく、…栄光の姿の教会』である(エペソ 5:27)。」各時代の争闘下 140, 141

「…キリストが来られるその時に、われわれを罪から清め、品性の欠陥を除き、あるいはわれわれの気質や性癖の弱点を直してくださるのではない。もしそういうことがわれわれのためになされるとすれば、その時が来る前にすべて完成しているのである。

主が来られる時には、聖なる者はさらに聖なることを行うままになるのである。罪を清められ、肉体と霊を聖にして貴い状態に保って来た人々が、その時、不死の体に仕上げられる。しかし不義な者、清められていない者、汚れた者は永久にその状態にとどまる。その時には、彼らの欠陥を除いて清い品性を与えるためのどんな働きもはやなされない。これはすべ

て今日の恵みの期間中に行われなければならない。今こそこの働きがわれわれのために完成されなければならない。」教会への勧告下 251

## 真のきよめ

### カルバリーの十字架の影を歩く

「カルバリーの十字架の影を歩くものには、自分を高めたり、自分はもはや罪を犯さないなどと誇ったりすることはあり得ない。彼らは、自分たちの罪が、神のみ子の心臓を破裂させるほどの苦悩を引き起こしたことを感じる。そしてこの思いが、彼らをへりくだらせる。イエスに最も近く生活する者が、人間の弱さと罪深さを最もはっきりと認める。そして自分たちの唯一の希望を、十字架につけられ復活された救い主の功績に置くのである。

現在、宗教界において注目を集めている清めには、自己賞揚の精神と神の律法の無視とが伴っており、このことは、それが聖書の宗教とは異なったものであることを示している。その主唱者たちは、清めは瞬間的な業で、信仰だけによって、完全な清めに到達すると教えるのである。彼らは、『ただ信じなさい。そうすれば、祝福が与えられる』と言う。これを受ける者はなんの努力もしないでよいと思っている。それとともに、彼らは、神の律法の権威を拒否し、自分たちは戒めを守る義務から解放されたと主張する。しかし、神の性質とみ旨の表現であり、何が神のみこころにかなうかを示している原則に調和せずして、人間は、神のみこころと品性とに一致して清くなることができるであろうか。」各時代の争闘下 199, 200

# 三天使の使命

## —第2部—

金城 重博



### 序論

黙示録14:6-12に地球歴史の最後の警告と福音のメッセージが記されています。これは、14～20節によると魂の大収穫に備えるメッセージです。全人類は、イエス・キリストによる永遠の福音を受け入れる者とそれを拒む者の二種類に分けられる時が来ます。キリストの再臨、あるいは再来の前にすべての人々に伝えられなければならないメッセージです。

読んでみましょう：

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』。また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者』。ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある。』」黙示録 14:6～12

この三天使の使命、あるいは、三重の使命は：

### 1. 純潔と栄光と力と高尚な性質の使命です。

「この警告が、天使によって宣布されるといわれていることは、意義深い。神は、天使の純潔と栄光と力とによって、この使命の果たす働きの高尚な性質と、それに付随した力と栄光とを象徴することをよしとされた。」大争闘下 49

### 2. この運動は急速で世界的範囲のものであることを意味します。

「天使が、『中空を飛び』『地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に』宣布するために、大声で言ったということは、この運動が急速で世界的範囲のものであることを証明している。」大争闘下 49、50

### 3. 永遠の福音は信仰による義認そのものです。

イエス・キリストに対する信仰による従順(服従)であることをアンカー49号で学びました。

### 4. 最も恐るべき厳粛な警告のメッセージです。

大争闘下171、初代文集414

### 5. 神の「最後の憐れみのメッセージ」です。

MM 334

### 6. 全人類を二分する現代の真理です。

キリスト教一致運動どころか、「真理によって聖別する」現代の真理です。無数の宗教、教派ではなく二種類に人類は分類されるのです。

## 7. 三天使の使命は、よくよく研究すると聖書のすべての重要教理のエッセンスであることが分かります。

一例を挙げてみますと、「神」という言葉の中に、イエス・キリスト、聖霊の教理があります(マタイ28:19)。「さばきの時」という言葉に人間の死後の状態の教理があります。「死んだら靈魂はすぐ天国、あるいは地獄に行く」というのではなく、「死んで後裁きを受け」(ヘブル9:27)、キリスト再臨の時に「報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」という教理を見出します。(黙示録22:12)。「神に栄光を帰せよ」という言葉に、信仰による義認(ローマ4:20-24)、健康改革の教理を見出します。(1コリント6:20)、「天と地と海と水の源とを造られた方を、伏し拝め」という言葉に、我々は、神が6日間に天地を創造されて第7日を安息日、礼拝日とされた教理を見出します。…等々と現代の真理が含まれていることを知るでしょう。

この最後のさばきの福音の使命は、使徒たちも宗教改革者たちも述べ伝えることはしませんでした。なぜでしょうか？使徒たちは「さばきの時」は未来にあると考えていたからです。使徒行伝17:31に「神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め、…」とあります。マルチン・ルターは「300年たったならキリストはご再臨なさる」と言いました。確かに19世紀の半ばに再臨運動が起りました。

再臨信仰の基礎であるダニエル8:14にある、聖書で最も長い預言期間は、1844年を指していました。イエスは天の至聖所に入られて、再臨に備えるための特別な最後の働きを開始なさいました(大争闘下140)。1844年ごろは、サタンがこの最後の働きを妨害するために特に働き始めました。フリーメイソン、心霊術(降神術)、神智学、偽預言者、モルモン(末日イエス・キリスト教会)、エホバの証人、クリスチャン・サイエンス、共産主義、進化論、聖書高等批評学、等々が生まれた時期でした。

神は、キリストの再臨に人々を備えさせるために、三天使の使命を与えられました。

今日は、第一天使の使命について学んでみたいと思います。

第一天使の使命には三つの命令がある：

- ① 「神をおそれよ」
- ② 「神に栄光を帰せよ」
- ③ 「創造主を伏し拝め」

まず、「神」について知ることが事の初めです。

聖書は、神は万物の創造者であると教えている。

「神」英語「God=ゴッド」創造者で、「gods=ゴッズ」は被造物です。ギリシャの神々、日本の八百万の神々は拝むべき神ではありません。全ての民族、国民に伝えなければならないことはまず、正しい神の知識です。なぜなら、「われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った」(イザヤ書53:6)からです。

創造主は、天と地と海と水の中にあるいかなるものも拝むことを禁じられておられます。ところが人間は、「自ら知者と称しながら、愚かになり、不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せて」被造物を拝むようになったのです(ローマ1:22)。

もし、パウロが現在日本に伝道に来たとするならば、何と説教するでしょうか？

「アテネ(日本)の人たちよ、あなたがたは、あらゆる点において、すこぶる宗教心に富んでおられると、わたしは見ています。実は、わたしが道を通りながら、あなたがたの拝むいろいろなものを、よく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇もあるのに気がついた(何事のおわしますかはしらねども、かたじけなさに涙こぼるる—西行)。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、いま知らせてあげよう。この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。また、何か不足でもしておるかのように、人の手によって仕えられる必要もない。……神たる者を、人間の技巧や空想で金や銀や石などに彫り付けたものと同じと、見なすべきではない。神は、このような無知の時代を、これまでは見過ごしにされていたが、今はどこにおる人でも、みな悔い改めなければならないことを命じておられる。」使徒行伝 17:22-30

日本人は天皇を神とした時代がありました。日本ばかりではない。ローマも皇帝を神と拝ませた時代がありました。そして現代でさえ、ローマ法王を絶対無謬の神として拝ませています。イエス・キリストを宿したマリヤを聖母として崇拝させています。世界に最も影響力を与えた法王ヨハネ・パウロ2世はマリヤ崇拝の第一人者でした。

そんな愚かなことをと笑う人もいるかもしれませんが、戦時中、日本人が天皇を崇拝したように、国権が行使されるとき、いともたやすく人間を崇拝するのです。黙示録13章を見ると、近い将来、「全

地の人々に「獣」「龍」を拝むよう強制する時が来ると預言されています。中世時代にヨーロッパで起こったことが世界的に起きるのです。今、ある巨大宗教団体は、着々と政治的に経済的に、地政学的にその方向へと世界を動かしています。

日本人は進化論、仏教、神道の国です。進化論も無神論で、仏教も無神論で、神道は自然崇拜です。日本人に聖書の福音を伝えるということは何というチャレンジでしょう。

日本は、昔「天之御中主神—アメノミナカヌシノカミ」と言っあつたねて天の絶対神を拝んでいた時があったと言われていあつたねます。幕末の平田篤胤という国学者によって、神としての性格が理由づけられ、そして後世に大きな影響を与えたのです。その天之御中主神の性質は、天地創造の神と言うべく抽象性の高い神として説明されているようです。中国でも皇帝さえ天の神を「上帝＝シャンティ」と呼んだ時代があったそうです。

新島襄氏は、聖書の「初めに、神は天と地を創造された」という言葉を読んで信仰を持ち、後に同志社大学を創立したと言われています。

使徒パウロは続けて日本人に向かって「大声で」叫んでいるのではないのでしょうか：

「神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。なぜなら、彼らは神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。」

彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり、

不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せたのである。

彼らは神の真理を変えて虚偽とし、創造者の代りに被造物を拝み、これに仕えたのである。

ゆえに、神は、彼らが心の欲情にかられ、自分のからだを互にはずかしめて、汚すままに任せられた。…それゆえ、神は彼らを恥ずべき情欲に任せられた。すなわち、彼らの中の女は、その自然の関係を不自然なものに代え、男もまた同じように女との自然の関係を捨てて、互にその情欲の炎を燃やし、男は男に対して恥ずべきことをなし、そしてその乱行の当然の報いを、身に受けたのである。

そして、彼らは神を認めることを正しいとしなかったので、神は彼らを正しからぬ思いにわたし、なすべからざる事をなすに任せられた。

すなわち、彼らは、あらゆる不義と悪と貪欲と悪意とにあふれ、ねたみと殺意と争いと詐欺と悪念とに満ち、また、ざん言する者、そしる者、神を憎む者、不遜な者、高慢な者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者となり、無知、不誠実、無情、無慈悲な者となっている。彼らは、こうした事を行う者どもが死に価するという神の定めをよく知りながら、自らそれを行うばかりではなく、それを行う者どもを是認さえしている。」ローマ 1:20～32

## 彼の言わんとする趣旨は何でしょう？

人間は創造主に背を向けると次のように堕ちていくというのです：

- ↓ 自己称揚、高慢
- ↓ 偶像礼拝-被造物、人間、動物
- ↓ 不品行、不道德、情欲、乱婚、同性愛
- ↓ 墮落 25、28-31

「創造者こそ永遠にほむべきものである、アアメン。」ローマ 1:25

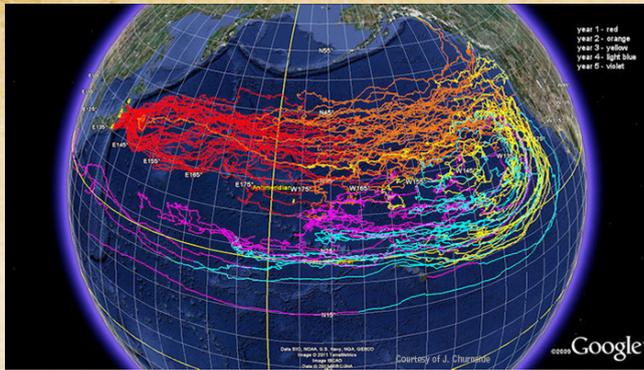
## 今、日本人の最大の必要は何でしょうか？

経済の安定化でしょうか？ 政治改革でしょうか？ 安全保障の確立でしょうか？

日本だけの問題ではありません。世界の墮落と危機の原因はどこにあるのでしょうか？ 日本は、幾たび大災害に悩まされてきたことでしょうか。阪神大地震、新潟大地震、東日本大地震、津波、原発事故等々による被害は恐ろしいものです。

「地は悲しみ、衰え、世はしおれ、衰え、天も地と共にしおれはてる。地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。」イザヤ 24:4-5

「サタンは人々に対し、あらゆる病気をいやすことのできる偉大な医師のようにみせかけながら、他方では病気や災害を生じさせ、ついには人口の多い都市が破滅して荒廃する。彼は今も



日本政府当局の予測によると、昨年の東日本大震災で生じた3万3000トンの瓦礫が、2013年の6月までに北アメリカの西海岸に漂着すると予想されている。(赤：1年目、オレンジ：2年目、黄色：3年目、青：4年目、紫：5年目)

活動している。海や陸における事故や災害、大火災、激しい突風、すさまじい降雹、あらし、洪水、たつまき、津波、地震など、あらゆる場所に幾多の形でサタンは力をふるっている。彼は取り入れまぎわの収穫を全滅させ、ききんと困窮を引き起こす。彼は空気を恐るべきウイルスで汚染させ、幾千人もの人が悪疫で死ぬ。これらのできごとはますますひんぱんになり、悲惨なものになる。破滅は人間にも、動物にもおよぶ。(イザヤ 24:4,5 引用) 大争闘下 88

## 聖書は、神は無限に聖であり、我々は罪人であると教えています。

「この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その翼のまわりも内側も目で満ちていた。そして、昼も夜も、絶え間なくこう叫びつづけていた、『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。昔いまし、今いまし、やがてきたるべき者。』」黙示録 4:8

「人々は神を全く忘れ、自分たちがかつてにつくり上げたものを拝んでいた。その結果、彼らはますます堕落した。偶像を拜むものが偶像からどんな影響を受けるかについて、詩篇記者はこう言っている。『これを造る者とこれに信頼する者とはみな、これに等しい者になる』(詩篇 115:8)。ながめることによって変化するのは、人間の精神の法則である。」人類のあけぼの上 89

預言者イザヤも聖なる神の御姿を仰いだとき、自分の罪深さに圧倒されました。

『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ』。…その時わたしは言った、『わざわざいなるかな、わたしは滅びる

ばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから。』イザヤ 6:1-6

キリスト者迫害の先頭に立って指揮していたあのサウロは、後に使徒パウロになって言った：

『『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった』という言葉は、確実に、そのまま受け入れるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。』第一テモテ 1:15

聖書の神は愛の神です。

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」ヨハネ 3:16

これを書いたヨハネは、「雷の子」と呼ばれるほどの短気者でした。しかし、なんと素晴らしい愛の使徒となったことでしょう。

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことが、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。」第一ヨハネ 3:1

「愛さない者は、神を知らない。神は愛である。」第一ヨハネ 4:8

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」ヨハネ 17:3

世界は実際的な正しい神の知識を必要としているのではないのでしょうか？

「救い主と同じように、わたしたちも神のために働くようにこの世に生存している。わたしたちは神のごとき品性を持つようになり、奉仕の生活によって社会に神を示さなければならない。神とともに働き、神に似た者となり、その品性を表わすためには正しく神を知るべきであって、神がご自分について示されているとおりに、わたしたちは神を知らなければならない。

神を知ることはあらゆる真の教育、真の奉仕の基礎です。それは誘惑に対する唯一のほんとうの防御であり、わたしたちの品性を神に似たものにするのできるのはこのほかにはない。このことは人類向上のために働いているすべての人に必要

な知識です。品性の変化、生活の純潔、奉仕の能率、正しい原則の厳守はすべて神に関する正しい知識に基く。この知識は地上の生涯のためにも、またきたるべき国での生活のためにも重要な準備です。」ミニストーリーオブヒーリング 381

- ・品性の変化
  - ・生活の純潔
  - ・奉仕の能率
- 正しい神の知識にかかっている！

## 偶像礼拝はなんと現代キリスト教会にも！

次の引用文は現代キリスト教会に対するエリヤの警告ではないでしょうか？

「偽りの教理や理論という偶像を刻むことは、木や石の偶像を刻むのと同じに容易です。サタンは、神の属性を誤り伝えることによって、人々に神についての誤った品性を想像させるのです。多くの人々にとって、主の代わりに哲学的偶像が王位を占めている。一方、み言葉の中に、キリストの中に、そして創造のみ業の中に啓示されている生ける神を礼拝する人は、少数にすぎない。幾千もの人々は、自然を神格化していながら、自然の神を否定している。形こそ違いますが、偶像崇拜は、今日のキリスト教界にも、古代イスラエルのエリヤの時代にあったのと同じように存在している。自ら賢人と称する多くの人々、哲学者、詩人、政治家、ジャーナリストたちの神、洗練された上流社会、多くの大学、はては幾つかの神学校などの神も、フェニキヤの太陽神バアルとほとんど変わるところがない。」 大争闘下 344、345

「わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ることを求めよう。主はあしたの光のように必ず現



れいで、冬の雨のように、わたしたちに臨み、春の雨のように地を潤される。」ホセア 6:3

私たちは、最後の民として御業完成のために「後の雨」を求めています。リバイバルを求めています。主イエス・キリストの再臨を待ち望む民です。

聖書の神は、憐れみ深く、義の神であります。憐れみ、恵み、いつくしみ等々にいついて後半の義よりもっと多く語られているのはなぜでしょう？

「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず、父の罪を子に報い、子の子に報いて、三、四代におよぼす者。」出エジプト記 34:6、7

神を正しく知ることが永遠の命につながると教えています。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」ヨハネ 17:3

## 主は、クリスチャンに警告しておられる！

クリスチャンであると自称するだけで神を正しく知らないために、何と私たちの品性が歪いびつなものになっている事でしょう。私たちの奉仕の能率を下げている事でしょう。感化力の弱いクリスチャンとなっている事でしょう。

「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしは彼らにはつきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ。』」マタイ 7:21-23

ああ、主よ、あなたを知っている言いながら御名を汚している罪をゆるしてください！

真に神を知ることが次の「神をおそれる」こと、畏敬につながるのです。そして神に栄光を帰すことになるのです。

# 罪深き独立

ハル・メイヤー  
Keep The Faith Ministry

英語で単立自給伝道のことを“Independent Ministry – 独立伝道”と言ったり、“Self-Supporting Ministry – 自給伝道”と言ったりします。つまり、教団に依存しないで、自分たちで伝道活動をすることです。そのグループの中でもいろんな種類があります。メイヤー先生は「独立」という意味を説き明かします。2012年の秋のセミナーの講義を紹介します。

私は個人的に自給伝道という時に、独立という言葉を使いません。誤解を招くからです。今日は、特別に独立の原則を示したいと思います。普通の観念からは離れたと思います。聖書の観念から見ていきたいと思います。天には家族があります。神様は家族をお造りになりました。各々独自の個性を持ち、自由もあります。神様は自由意志で行動するように造られました。しかし、誰もこれを誤用し、天から独立して行動するようなことはしませんでした。すべての者は愛によって結ばれ、お互いに愛する為に生きていました。他の祝福のために生きたのです。

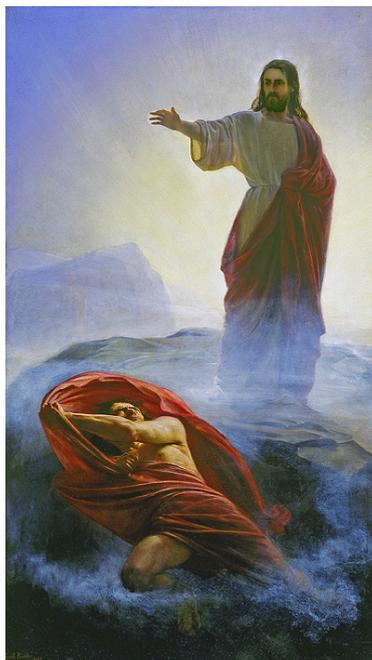
自然界はそうです。他の益のために生きています。蜂は花に授粉します。そして、植物に実を結ぶようにさせます。他の蜂はそれを食べます。人は実を食べます。

神様自身でさえも独立して行動なさいません。天においてはそれぞれが独立しているのではなく、互いに依存しているのです。神様は、いっぺんに大勢の人間を造ることもできました。しかし、そうならず、二人だけ造られました。二人が協力し出産して、全地に人口を増やすようになさいました。最初の父祖は欠点がありませんでした。神様が自由意志で互いに依存し、神に依存するように創造することには非常な危険が伴っていました。

人が罪を犯したときでさえ、神

様は人から親子依存権利を取りあげられませんでした。一人で独立して行動するよりは、あえて神様は、人間と共に苦悩することを選んだのです。もしそれを取り上げたら、人は自由意志を持つ存在者となり得なかったからです。そうではなく、相互依存に自ら選んで協力して生きるように造られました。神様は子育てを通して協力依存を学ばせようとされたのです。神様はわたしたちを共労者にしようとされたのです。「わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である」(第一コリント 3:9)。神様は私たちが天と協力して家族を、教会を建てるように意図しておられるのです。救霊においてもそうです。強制、独裁主義、階級制度は神様の方法ではありません。

天で戦いが起こりました。それは、被造物は自分で選んで互いに協力し、依存する自由意志があったからです。サタンが天使を欺き始めた時でさえ、神様は、選択の自由を奪いませんでした。サタンは独立して行動し始めたのです。天には完全な調和があったのですが、それ以後、天に分離が起こりました。天使の三分の一がサタンの側につきました。最終的にサタンとその仲間は天から落とされました。その後、サタンは地球の代表者となりました。しかし、それは十字架まででした。十字架でサタンに対する天使たちの同情は全くなくなりました。その時から、



イエス様が地球の代表者となったのです。

「サタンは自分の仮面が引きはがされたことを知った。彼の統治は墮落していない天使たちと天の宇宙の前に公開された。彼は殺人者の正体を現わした。神のみ子の血を流すことによって、彼は天の住民の同情をまったく失ってしまった。それからのち彼の働きは制限された。どんな態度を装おうと、彼はもはや天使たちが天の宮廷から出てくるのを待ち伏せて、キリストの兄弟たちが暗黒の衣と罪のけがれを着ていると彼らに訴えることができなくなった。サタンと天の世界との間の同情という最後のつながりがたちきられた。」各時代の希望下286

天使のサタンに対する同情は十字架でなくなりました。それからサタンは独立して働きをこの地球においてはじめました。天は相互協力と一致において保たれています。サタンの独立精神が存在しなければ、天の原則は続いていたはずですが、不一致が出てきました。神の原則と相争う原則がこの地球に入ってきたのです。

サタンはエバを説得して神から、そして夫から独立するように働きかけました。エバは神に依存せず、賢くなれると思ったのです。ここから混乱が生じました。それ以来、この地上は神に依存しないサタンの独立機関となりました。この地球のほとんどの人がサタンの独立機関に忠誠を示すようになりました。



神に忠誠を示した人々は、その他の大勢の人たちと一緒にいられなくなったのです。エノク、ノアたちは神に依存し神から分離しませんでした。しかし、逆に彼らは独立、分離していると批判されるようになったのです。当時多くの者は神から独立していながら、自分たちが確立された教会であると主張していました。しかし、エノク、ノアたちは、神から独立していたのではありません。一般社会から彼らはのけ者にされ、分離しました。サタンの独立機関に加わった人々は、地球の教会を打ち立てたのです。背教の教会でした。極端なほどまで神様を冒瀆しました。神様に忠実な人々

は、この世から独立した状態でした。もしみなさんが当時居たなら、どっちの側にいたいのですか？

ノアは当時の人から、独立機関を打ち立てていると非難されたのです。

エノクは天から独立しないで調和する生き方を学びました。当時の地上の教会とは調和しない清い生き方をしていたので天に挙げられました。サタンの独立し、反逆した教会から分離して生活していました。最終時代の私たちはいかに天と一致し、神の御心と調和して生きるかを学ぶことが大切です。天から独立した人々からは独立しなければなりません。

「僕たる者よ。キリストに従うように、恐れおののきつつ、真心をこめて、肉による主人に従いなさい。」エペソ6:5

世俗の権力が神と天の原則から離れるように要求しない限り、私たちは謙遜に従うべきです。

「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。」第一ペテロ5:5,6

多くの人は従順を好みません。しかし、これが天の法則です。妻も夫も互いに従順であるべきです。子供もそうです。従順であり、協力し、一致する、これが聖書から教えられていることです。14万4千もエノクやノアのように神様に従うことを学んだ人々です。サタンから独立し、神に依存することを学んだ人々です。天使たちと共に協力することを学んだ人々です。サタンの独立伝道機関に属する偽の宗教、礼拝をしている人々がいます。小羊の行くところへはどこにでもついていく人々は、常にサタンの教会から独立します。

アブラハム、イサク、ヤコブのことを考えてみてください。神は彼らを通してご自分の教会を設立しました。しかし、イスラエルの教会全体が神から独立し、神に従わなかったとき、サタンはど

んなに喜んだでしょう。シナイ山で、モーセに反逆しました。カナンを探ってきた10人の斥候は悪い情報を与えました。カレブとヨシュアは、カナンを占領できると言いましたが、彼らはそのために、大勢から独立したものと非難され、石で撃たれそうになりました。しかし、カレブとヨシュアは、神様に依存していました。そして、約束の地に入ることが許される特権にあずかりました。しかし、イスラエルの民はそういう彼らを除名しようとしたのです。



今日のセブンスデー・アドベンチスト教会のように組織されていました。全会衆が集まって決議したのだから、神様の御心と調和すると言ったのです。教会は聖なるものなので、その決議は尊重されるべきだと言ったのです。しかし、その決議はモーセとアロンを指導者からはじき出すことでした。それは、神のみこころでしたか？全体会議でモー

セとアロンは独立しているといわれたのです。しかし、神様から独立していたのは教会全体でした。モーセとアロンは神から独立していませんでした。そこで、神ははっきりとした言葉でだれがイスラエルの指導者であるべきかお示しになりました。神様が介入なさいました。神様は、コラ、ダタン、アビラムを除名されました。

今日もそうです。一見独立していると言って非難される人々がそうでないことがあります。確立された教会員が神様に従っていないことがあるのです。10人の斥候か、カレブとヨシュアか、どちらが神の民ですか？天の教会に忠実なのはどちらでしたか？カレブとヨシュアでした。しかし、教会全体が反対の側に加わったために、さらに40年も荒野をさまよったのです。

モーセは、選ばれた指導者ではなかったことに注目してください。彼はキリストの型でした。彼は教会の指導者としてキリストに代わって行動しました。キリストがモーセと顔と顔を合わせて語り導きました。キリストも私たちの選んだ指導者ではありません。

問題はどちらの教会が天の教会に忠実かということです。10人の斥候は罪深い独立心を抱いていました。組織された独立教会から独立して神に従ったカレブたちが正しかったのです。彼らの行為は、罪深き独立ではありませんでした。

コラ、ダタン、アビラムは、イスラエル人によって選ばれた指導者で、彼らがイスラエルを道に迷わせたのです。

モーセに逆らったコラ、ダタン、アビラムを覚えていますか？

彼らは、教会全体によって選ばれたからと言って神は彼らを受け入れましたか？いいえ、決してそうではありませんでした。もし、神がゆるされたなら、コラ、ダタン、アビラムは教会の上に王者の権限を行使し、教会を支配したことでしよう。

「イスラエルの人々のうち、会衆のうちから選ばれて、つかさとなった名のある人々二百五十人と共に立って、モーセに逆らった。彼らは集まって、モーセとアロンとに逆らって言った、『あなたがたは、分を越えています。全会衆は、ことごとく聖なるものであって、主がそのうちにおられるのに、どうしてあなたがたは、主の会衆の上に立つのですか』。」民数記 16:2,3

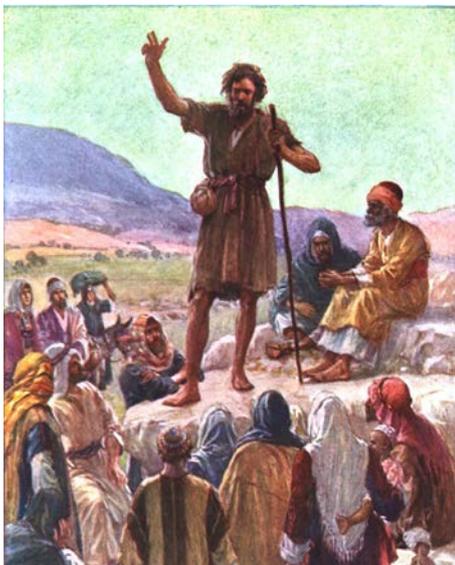
ところで、ローマ法王も教会から選ばれた指導者ということで、民に対して自分は神であるかのようにふるまうのです。

この時モーセとアロンは教会から独立してあまりにも自分たちが権力を持ちすぎていると非難されました。この時250人の教会の代議員がいました。会議がもたれ、議論がされ、決議がされました。

もし選ばれた指導者が神様の勧告に背き、聖書と預言の霊から外れて行動するなら、神様に受け入れられることはありません。ちょうど、昔イスラエルの時代に指導者が受け入れられなかったことと同じです。当時、イスラエル全会衆が、サタンの指導の下に独立機関となっていました。

バプテスマのヨハネのことを考えてみましょう。罪に陥った指導者を譴責しました。

「ヨハネは、サンヒドリンの権威をみとめなかったので、自分の働きに彼らの承認を求めようとしなかった。そして彼は役人も民衆も、パリサイ人もサドカイ人も同じように譴責した。ヨハネはサンヒドリンの意見に従わなかったが、サンヒドリンはヨハネが公の教師として彼らの管轄下にあるものとみなした。」各時代の希望上148



彼らはヨハネが独立した働きをしていると譴責しました。しかし、彼は神から独立していましたか？ 神から独立していたのは選ばれた指導者達でした。サンヒドリンが神の権限を持っていると思っていたのです。教会の最高の権威を持っているのは彼らだと思っていました。神に属する権威を自分たちのものにしましたのです。バプテスマのヨハネも含めてすべてを支配しようとしたのです。

引用文の最後の部分に耳を傾けていただきたい：

「ヨハネはサンヒドリンの意見に従わなかったが、サンヒドリンはヨハネが公の教師として彼らの管轄下にあるものとみなした。」各時代の希望上148

彼らは、神の預言者を支配しようとしたのです。彼らはヨハネに何をなすべきか、何をしてはならないかを告げようと思ったのです。

もしヨハネが当時の教団の承認を求めていたら、このように教会の中にある反逆、罪を譴責することはしなかったでしょう。さらに悪いことに、救い主の道を備えることもしなかったでしょう。

彼は言いました：

「斧がすでに木の根もとに置かれている。だから、良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれるのだ。」マタイ3:10

だれであろうと、どんな組織であろうと、どんな機関であろうと、神様から離れて勝手に自分の

道を歩むなら、また勝手な方針をつくるなら、神様がしてはならないと言われることをするなら、実を結ばない木となってしまふのです。

E.G. ホワイトは、ヨハネの使命を詳しく次のように言っています：

「木の価値は、その名によってではなく、その実によってきまる。もし実が無価値なら、名はその木が滅びるのを救うことができない。ヨハネは、神の前におけるユダヤ人の立場は、彼らの品性と生活とによって決定されるのだと宣言した。口に言うだけでは無価値である。もしユダヤ人の品性と生活が神の律法に一致していなければ、彼らは神の民ではない。」各時代の希望上109

サンヒドリンにとって、教会とは選ばれた指導者たちによって組織された目に見えるものと考えられていました。彼らは、それはどんなことがあろうといつまでも存続するものと教えました。まさか、神殿が近いうちに破壊されるとは考えもしませんでした。

ヨハネのしていることは、独立分派行動であると彼らは考え、その影響が強すぎたため、沈黙させて取り除こうとしたのです。

E.G. ホワイトは今日の私たちの働きについてこう言っています：

「キリストがおいでになる直前のこの恐るべき時代に、神の忠実な伝道者たちは、バプテスマのヨハネよりも鋭い証を語るであろう。責任の重い、重要な働きが彼らの前にあり、なめらかなことを語る者たちを、神はご自分の牧者とはお認めにならないであろう。恐るべき災いが彼らに宣告される。」1T 321

ヨハネは独立伝道ということで非難されましたか？ 彼は独立伝道機関でしたか？ 神様からは独立していませんでしたが、当時の教会の指導者からは独立伝道として取り扱われました。

セブンスデー・アドベンチスト教会の歴史において、神様は同じ教訓を教えられました。

ケログ博士が建てたサニタリウムが神様から独立した時、神様はそれを焼かれました。それはセブンスデー・アドベンチストに対する警告でした。しかし、私たちはそれらの教訓を忘れてしまったように思われます。

最後に、イエス・キリストについて少し話してみよう：

キリストは働きの最初から独立していると取り扱われました。しかし、彼はだれよりも最も神に依存して神から一瞬も独立しなかった人でした。

「わたしは、自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考えですのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。」ヨハネ5:30

イエス様は教会から独立して働かざるをえませんでした。そのため、教会は彼を神殿から追い出し石打ちにしようとしたのです。カレブとヨシュアと同じように石で打ち除名しようとしたのです。

「青少年たちは、会堂の教師たちの中で、伝統的なイスラエル人として当然守るものとされている数え切れないほどの規則によって教育を受けた。しかしイエスはそうした事から関係されなかった。イエスは、子供の時からラビの律法にとらわれないで行動された。イエスはいつも旧約聖書を研究され、『主はこう言われる』ということばがいつも彼の口からきかれた。」各時代の希望上81

教会指針に従って行動するように言われた時、「私はみ言葉と個人の良心の権利に反するものではないならば従って行動します」と権威者に言えばいいのです。

「彼らは古代のラビから伝えられてきた格言や言い伝えをイエスが受け入れられるようにすすめたが、イエスはそうしたものの權威が聖書にもとづいているかどうかをおたずねになった。イエスは神のみ口から出ていることばならどんなことでも聞き従われたが、人間が考え出したものに従うことはおできにならなかった。」各時代の希望上82

イエスの母でさえもイエスが独立していると考えていました。

「マリヤはたびたびイエスに忠告して、ラビの慣習に従うようにすすめた。」各時代の希望上90

指導者たちは、イエスが独立して行動するので教会を破滅させるのではないかと思ったのです。確かにある意味ではそうでした。イエスは教会の土台でしたから。彼は天から独立するものを何でもあっても破壊しようとされました。

それで、彼らは、イエス様を排除することにして、彼を十字架につけたのです。その結果、彼らは教会を失うことになったのです。

神様は、教会組織を長く耐え忍んで目的を果たそうとなさいます。

ある人は組織された教会員となれない場合、どうすればいいのかというジレンマに苦しむことがいつもあります。

ある時には、真理に対して妥協しないために確立された教会のメンバーとして受け入れられない場合があります。しかし、それでも真理に従えば、天のセブンスデー・アドベンチスト教会員になることができます。そういう時は、セブンスデー・アドベンチストのメッセージを信じる者たちによる家の教会をつくればいいのです。

真実な人たちのこのようなジレンマは、いつの時代にもあります。

共産主義時代の、ロシアにおいてもしかり、ハンガリーや他の国々でもそうでした。第一次世界大戦と第二次世界大戦の時、ドイツにも忠実な真のセブンスデー・アドベンチストたちがいました。彼らは大変な経験をしました。

彼らは独立分派と非難されました。しかし、彼らは神の言葉に従わない者たちと妥協することはしなかったのです。

マルチンルターも、ワルデンセスの人たちもそうであったのです。神の言葉に従わない人に屈することをしなかった人たちです。このように、神に従順に依存して正しい独立をしてきた人たちがいつの時代にもいました。訴えたいのは、決して、神から独立した状態に自分をおかないで欲しいということです。神様が啓示された教えに従わない教会から独立するのは、間違っただけではありません。罪深い独立と正しい独立の違いがあるのです。エノクやノアのように神に従うときに祝福があります。邪悪な時代に光を掲げようではありませんか。

## 今、なぜSDAか?

世代は変わり、社会のニーズは変わったように見えてもアドベンチストが存在する理由とその使命は変わらない。生きて主を迎える準備という他のどの宗派もなしえなかった重大使命は今、青年達に向けられる。B5, 72 ページ



500 円

## 最終時代の使命 研究ガイド

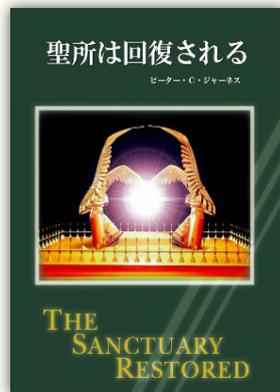
現代の真理—三天使の使命を聖書から質問に答える形式で学ぶ。小中学生、大人にも聖書研究としておすすめの問題集。全 31 課, B5, 128 ページ



500 円

## 聖所は回復される ピーター・C・ジャーネス著

聖所の清めと回復は、再臨信仰の土台であり基礎である。この理解に万事がかかっている。再臨信徒の最優先すべき、最重要の大真理である。神のみ業完成のカギがここにある。A4, 93 ページ



500 円

## 「人間の尊厳」研究ガイド付き

「創造の最高作品である人間」はその尊厳を失った。しかしキリストの贖罪と仲保の働きによってどれほど高く挙げられるかを教課形式で学ぶ。全 13 章 A5, 232 ページ



500 円



## 2012 年秋セミナー収録集

2012 年 10 月  
講師：ハル・メイヤー

- ◎ なぜ神は自給伝道の働きを任じられるのか?
- ◎ 新神学の歴史と現代 SDA 教会における意味
- ◎ 自給伝道への支援
- ◎ 罪深き独立
- ◎ グローバリズム

DVD (3 枚) : 1,200 円  
CD (9 枚) : 1,800 円  
MP3 (1 枚) : 720 円

SUNRISE MINISTRY  
サンライズ ミニストリー刊行誌

**Anchor** アンカー No.50  
発行人 金城 重博

〒 905-0428  
沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471  
E-mail: contact@srministry.com  
郵便振込番号 : 02080-0-12121  
サンライズミニストリー

www.srministry.com  
TEL (0980) 56-2783  
FAX (0980) 56-2881

### 「アンカー」: 目的と編集指針

私たちは次のことを信じてアンカーを出版しています。

1. 我々 SDA の働きと使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
2. 三天使の使命は人々をキリスト再臨備える特別な最後の使命である。(9T 98, 大争闘下 140)
3. 三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な贖い清めを受ける。(初代文集 414, 5,7)
4. 我々は神のご計画されたこの特

別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に 1888 年以来 (RH26, 1890 年)

5. ダニエル書 8:14 の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, 5T 575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。(ISM 36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー (錨) は、三重の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの証 (預言の霊)

等である。(黙 12:17, 19:10, 22, 初代文集 417, 1T 300)

8. アンカーはリレーの最終走者の意味もある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、150 年も時が延ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の今日の、義務は何か、

約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に備えたい。

9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとい教会がどんなに背教しようとも、近い将来、「最後の試練」(黙 13 章) が来る時、多くの者がふるわれ、代わりに諸教会から真実な多くの者が出てきて最後の純潔な「女の残りの子ら=レムナント」を構成し(黙 18 章)、永遠の福音伝は短期間に終わると信じる。激しいふるいの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。

## 埼玉

### スケジュール

	29(金)	30(土)	31(日)
7:30   8:30	朝食		
9:15   9:30	ソングサービス	9:00 女性会館の講義	
9:30   10:50	講義2 安息日学校 金城重博	ソングサービス 講義7 デビッド・カン	
10:50   11:00	休憩		
11:00   12:20	講義3 礼拝 デビッド・カン	講義8 デビッド・カン	
12:20   14:00	昼食		
14:00   15:30	ソングサービス 講義4 金城重博		
15:30   15:45	休憩		
15:45   17:00	講義5 デビッド・カン	質疑応答 金城重博	
17:00   18:00	自由時間		
18:00   19:00	夕食		
19:00   20:30	ソングサービス 講義1 デビッド・カン		
	休憩		
	講義6 デビッド・カン		

# 神はみ業をどのように速やかに完成されるか?

- ▶ 独立伝道牧師としてのわが旅路
- ▶ アドベンティズムの存在目的
- ▶ 5時から加わる働き人
- ▶ マタイ 24 章の再吟味
- ▶ 至聖所の経験 他

埼玉県

国立女性教育会館  
研修棟 1階 講堂

場 所

2013年3月

29(金) 午後7:00 ~

30(土) 午前9:15 ~

31(日) 午前9:00 ~

※詳細は裏面へ

日 時



講師: デビッド・カン

米国在住。韓国出身のSDA独立伝道者。出版・メディアを通し米国、韓国、中国を中心に三天使の使命宣教に専念。教派を問わず牧師・伝道者向けセミナーを開催している。

[www.lightforlife.org](http://www.lightforlife.org)

## 沖縄

### スケジュール

	5(金)	6(土)	7(日)
9:15   9:30	ソングサービス		
9:30   10:50	講義3 金城重博		
10:50   11:00	休憩		
11:00   12:20	スペシャルミュージック		
12:20   14:00	講義4 デビッド・カン		
14:00   15:30	ソングサービス 講義1 デビッド・カン		
15:30   15:45	休憩		
15:45   17:00	講義2 デビッド・カン	講義5 金城重博	講義7 デビッド・カン
17:00   18:00	夕食 各自	夕食 各自	夕食 各自
18:00   18:15	開 場		
18:15   18:30	ソングサービス		
18:30   20:30	一般講演1 聖書は我々が地上歴史の最終時代にいると表明している デビッド・カン	一般講演2 偽福音の欺瞞を暴露 デビッド・カン	一般講演3 獣の刻印 デビッド・カン

# 地上歴史の最後—警告と希望のメッセージ—

- 5(金) ▶ 聖書は我々が地上歴史の最終時代にいると表明
- 6(土) ▶ 偽福音の欺瞞を暴露
- 7(日) ▶ 獣の刻印

浦添市産業振興センター  
結の街 3階 大研修室

場 所

2013年4月

5(金)・6(土)・7(日)

夜の部: 午後6:00 開場

午後6:15 開演

※詳細は裏面へ

日 時

Vegetarian Restaurant **HERB**

菜食レストラン ハーブ



みなさまのお越しを心よりお待ちしております

OPEN AM 11:00 ~ PM 6:00 CLOSE 金・土

<http://herb.srministry.com/> ※春・秋に一週間ほどの臨時休業がございます。

沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471 TEL&FAX 0980-56-5681